



1 導入編

本装置や添付のソフトウェアの特長、導入の際に知っておいていただきたい事柄について説明します。また、セットアップの際の手順を説明しています。ここで説明する内容をよく読んで、正しくセットアップしてください。

概要(→2ページ)	本装置の特長や添付(または別売品)のソフトウェアおよび各種オプションとソフトウェアの組み合わせによって実現できるシステム管理のための機能について説明しています。
導入にあたって(→6ページ)	システムを構築する際に知っておいていただきたい事柄や、参考となるアドバイスが記載されています。
お客様登録(→10ページ)	お客様登録の方法について説明しています。Express5800シリーズ製品に関するさまざまな情報を入手できます。ぜひ登録をしてください。
セットアップを始める前に(→11ページ)	セットアップの順序を説明します。お使いになるオペレーティングシステムや購入時の本体によってもセットアップの方法は異なります。
カスタムインストールモデルのセットアップ(→14ページ) ..	購入したハードディスクドライブにインストール済みのWindows Server 2003およびWindows 2000のセットアップの方法について説明しています。再セットアップの際は、「未インストールモデルのセットアップおよび再セットアップ」を参照してください。
未インストールモデルのセットアップ および再セットアップ(→37ページ)	Windows Server 2003およびWindows 2000をインストールする手順について説明しています。再インストールの際にも参照してください。
ターミナルサービスについて(→48ページ)	ターミナルサービスのインストール方法とクライアントからサーバへの接続や切断方法について説明します。
HostRAIDについて(→54ページ)	本体標準のシリアルATAインタフェースを利用したハードディスクドライブのディスクアレイ機能(SATA HostRAID)について説明しています。詳細な説明はオンラインドキュメントに記載されています。

概要

以下にお買い求めになられた本装置の特長を示します。

高性能

- 高速プロセッサ (Intel® Pentium® M Processor 745 (1.8GHz))
- 高速1000BASE-Xインタフェース (1Gbps)x2
- 高速ディスクアクセス (SerialATA 150)
- DDR SDRAM(PC2100)

拡張性

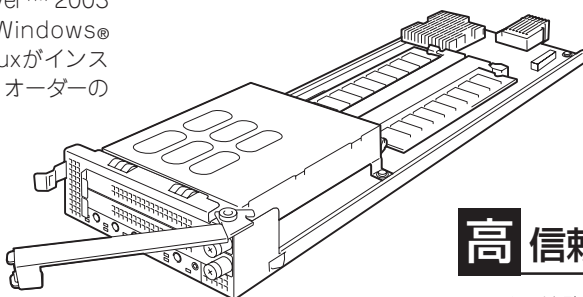
- 最大2GBの大容量メモリ
- LANポートを2チャンネル標準装備
- USB 1.1(1ポート)対応

豊富な機能搭載

- ソフトウェアPower Off
- リモートパワーオン機能
- AC-LINK機能

すぐに使える

Microsoft® Windows Server™ 2003 日本語版、Microsoft® Windows® 2000 日本語版またはLinuxがインストール済み(ビルド・トゥ・オーダーの場合)



管理機能

- ESMPROプロダクト
- DianaScope

保守機能

- SystemGlobe DeploymentManager Lite
- オフライン保守ユーティリティ
- DUMPスイッチによるメモリダンプ機能

高信頼性

- メモリ監視機能(コレクタブルエラーの訂正、アンコレクタブルエラーの検出)
- メモリの縮退機能
- バスパリティエラー検出
- 温度検知
- 異常通知
- 筐体ファン回転監視機能
- 内部電圧監視機能
- BIOSパスワード機能
- 内蔵ディスクアレイ (HostRAID)

自己診断機能

- Power On Self-Test (POST)
- システム診断ユーティリティ

便利なセットアップユーティリティ

- EXPRESSBUILDER(システムセットアップユーティリティ)
- SETUP (BIOSセットアップユーティリティ)

サーバ管理について

本装置では、高い信頼性を確保するためのさまざまな機能を提供しています。
各種リソースの冗長化などといったハードウェア本体が提供する機能と、本体に添付されているESMPROなどのソフトウェアが提供する監視機能との連携により、システムの障害を未然に防止または早期に復旧することができます。
また、停電などによる電源障害からサーバを守る無停電電源装置などの各種オプション製品により、さらなる信頼性を確保することができます。
各機能はそれぞれ以下のハードウェアおよびソフトウェアにより実現しています。

管理分野	必要なハードウェア	必要なソフトウェア
サーバ管理	サーバ本体機能	ESMPRO/ServerManager ESMPRO/ServerAgent
ストレージ管理 ● ディスク管理 ● バックアップ管理	・ ハードウェア全般 ・ 本体標準装備のディスクアレイコントローラ(SATA HostRAID™) DAT/AITなど*	ESMPRO/ServerManager ESMPRO/ServerAgent Adaptec Storage Manager™ - Browser Edition Windows標準バックアップツール ARCserve for Windows NT* BackupExec*、NetBackup*
電源管理	無停電電源装置(UPS)*	ESMPRO/UPSController* PowerChute Business Edition* (注) 無停電電源装置により、使用するソフトウェアが異なります。
ネットワーク管理	100BASE-TX接続ボードなど*	WebSAM/Netvisor*

* オプション製品。

サーバ管理

本装置上には標準でシステム監視チップを搭載しており、本体に内蔵されている以下の各種リソースを監視します。これらのハードウェア機能とシステム管理用ソフトウェア「ESMPRO/ServerManager」と「ESMPRO/ServerAgent」が連携し、本体の稼動状況などを監視するとともに万一の障害発生時にはただちに管理者へ通報します。
ESMPRO/ServerAgentをインストールした場合、データビューアの項目ごとの機能可否は下記の表のとおりです。

また、DianaScopeにより、オペレーティングシステムが稼動していない状態でのリモート操作/保守を管理PCから行ったり、リモートパワーオン機能により、リモートのPC上から本装置の電源をONにすることができます。



ESMPRO/ServerManagerやESMPRO/ServerAgent、DianaScope、SystemGlobe DeploymentManager Liteは、標準で添付されています。
各ソフトウェアのインストール方法や使用方法は、各ソフトウェアの説明を参照してください。

機能名	可否	機能概要
ハードウェア	○	HWの物理的な情報を表示する機能。
メモリバンク	○	メモリの物理的な情報を表示する機能。
装置情報	○	装置固有の情報を表示する機能。
CPU	○	CPUの物理的な情報を表示する機能。
システム	○	CPUの論理情報参照や負荷率の監視をする機能。 メモリの論理情報参照や状態監視をする機能。
I/Oデバイス	○	I/Oデバイス(フロッピーディスクドライブ、シリアルポート、 パラレルポート、キーボード、マウス、ビデオ)の情報参照をする機能。
システム環境	○	温度、ファン、電圧、電源、ドアなどを監視する機能。
温度	○	筐体内部の温度を監視する機能。
ファン	○	ファンを監視する機能。
電圧	○	筐体内部の電圧を監視する機能。
電源	○	電源ユニットを監視する機能。
ドア	X	Chassis Intrusion(筐体のカバー/ドアの開閉)を監視する機能。
ソフトウェア	○	サービス、ドライバ、OSの情報を参照する機能。
ネットワーク	○	ネットワーク(LAN)に関する情報参照やパケット監視をする機能。
拡張バスデバイス	○	拡張バスデバイスの情報を参照する機能。
BIOS	○	BIOSの情報を参照する機能。
ローカルポーリング	○	エージェントが取得する任意のMIB項目の値を監視する機能。
ストレージ	○	ハードディスクドライブなどのストレージデバイスやコントローラを監視する機能。
ファイルシステム	○	ファイルシステム構成の参照や使用率監視をする機能。
ディスクアレイ	X	LSILogic社製およびPromise社製ディスクアレイコントローラを監視する機能。
その他	Watch Dog TimerによるOSストール監視機能をサポートしています。	

○: サポート △: 一部サポート X: 未サポート

電源監視について

電源監視については、以下のように動作します。

ー 電源ユニットの状態について

ESMPRO/ServerManagerのデータビューアの[ESMPRO] - [システム環境] - [電源] - [場所]の[個別状態]は一つしか表示されませんが、個別状態は実装されている電源ユニットの状態を全て反映しています。

ー 電源ユニットの障害が発生した場合

常に「電源モジュール1」または、「電源ユニット1」にて発生したと通報します。障害の発生した電源ユニットを特定するには、電源ユニットのランプを確認してください。

ストレージ管理(ディスク管理)

大容量のストレージデバイスを搭載できる本装置を管理するために次の点について留意してください。

ハードディスクドライブの耐障害性を高めることは、直接的にシステム全体の信頼性を高めることにつながると言えます。標準添付品であるESMPRO/ServerManagerとESMPRO/ServerAgentを利用して定期的にディスクの状態をチェックしてください。



ESMPRO/ServerManagerとESMPRO/ServerAgentのインストール方法や使用方法は、各ソフトウェアの説明を参照してください。

本CPUブレードに同型番のハードディスクドライブを2台接続し、Windowsを使用する場合は、内蔵ディスクアレイ (HostRAID)を使用することができます(54、131ページ参照)。万一のシステムディスクの故障によるデータの消失を防ぐためにもHostRAIDによるRAID1環境の利用をお勧めします。HostRAIDを使用したディスクアレイの管理・監視には「Adaptec Storage Manager™ - Browser Edition(ASMBE)」を使用します。ASMBEに関する詳細については、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されているオンラインドキュメントを参照してください。

CPUブレードに接続された内蔵ハードディスクドライブ(2台必要)は、Windows標準のツールによりソフトミラーで運用することができます。

ディスクアレイ構成で運用していれば、万一のディスククラッシュの際にも、アレイディスク内のデータを失うことなく、復旧することができます。

無停電電源装置管理

商用電源のトラブルは、システムを停止させる大きな原因のひとつです。

停電や瞬断に加え、電圧低下、過負荷配電、電力設備の故障などがシステムダウンの要因となる場合があります。

無停電電源装置(UPS)は、停電や瞬断で通常使用している商用電源の電圧が低下し始めると、自動的にバッテリーから電源を供給し、システムの停止を防ぎます。システム管理者は、その間にファイルの保存など、必要な処理を行うことができます。さらに電圧や電流の変動を抑え、電源装置の寿命を延ばして平均故障間隔(MTBF)の延長にも貢献します。また、スケジュール運転によるシステムの自動・無人運転を実現することもできます。

本装置は、APC社製UPSをオプションで利用することができます。UPSの制御・管理は、UPSにWeb/SNMP Management Cardを装着し、ESMPRO/AutomaticRunningController製品群がネットワーク経由にて行います。

また、本装置を搭載するブレード収納ユニットに、電源ユニットを増設すると電源ユニットを冗長構成にすることができます。

ネットワーク管理

ESMPRO/ServerManagerおよびESMPRO/ServerAgentを使用することにより、本装置に内蔵されているLANポートの障害や、回線の負荷率等を監視することができます。

また、別売のWebSAM/Netvisorを利用することにより、ネットワーク全体の管理を行うことができます。

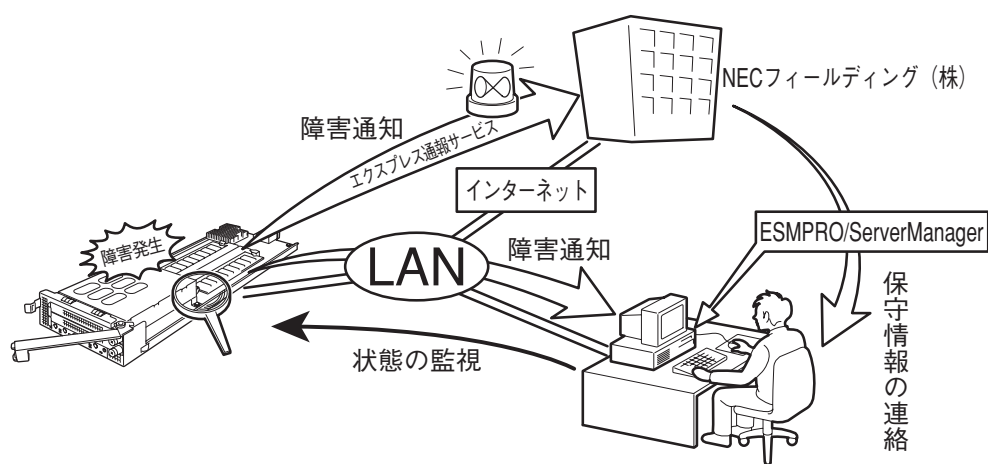
導入にあたって

本装置を導入するにあたって重要なポイントについて説明します。

システム構築のポイント

装置に標準で添付された「ESMPRO/ServerManager」および「ESMPRO/ServerAgent」を利用することにより、リモートから装置の稼動状況や障害の監視を行い、障害を事前に防ぐことや万一の場合に迅速に対応することができます。

システムの運用中は、「ESMPRO/ServerManager」および「ESMPRO/ServerAgent」を利用して、万一のトラブルからシステムを守るよう心がけてください。



なお、装置に障害が発生した際に、NECフィールディング(株)がアラーム通報を受信して保守を行う「エクスプレス通報サービス」を利用すれば、低コストでExpress5800シリーズの障害監視・保守を行うことができます。

「エクスプレス通報サービス」をご利用することもお検討ください。

システムの構築・運用にあたっての留意点

システムを構築・運用する前に、次の点について確認してください。

出荷時の状態を確認しましょう

本装置を導入する前に、本装置用のハードディスクドライブの状態を確認しておいてください。本装置用のハードディスクドライブでは、ご注文により出荷時の状態に次の2種類があります。

出荷時のモデル	説 明
カスタムインストール	ビルド・トゥ・オーダーでWindows Server 2003、Windows 2000またはLinuxのプレインストールを指定された場合。
未インストール	OSのプレインストールを希望しなかった場合。

出荷時のオペレーティングシステムのインストール状態により、必要なセットアップ作業が異なります。11ページの説明に従ってセットアップを行ってください。

セットアップの手順を確認しましょう

システムを構築するにあたり、装置のセットアップは必要不可欠なポイントです。本装置のセットアップを始める前にセットアップをどのような順序で進めるべきか十分に検討してください。

必要のない手順を含めたり、必要な手順を省いたりすると、システムの構築スケジュールを狂わせるばかりでなく、本装置が提供するシステム全体の安定した運用と機能を十分に発揮できなくなります。

1. 運用方針と障害対策の検討

本装置のハードウェアが提供する機能や採用するオペレーティングシステムによって運用方針やセキュリティ、障害への対策方法が異なります。

「概要(2ページ)」に示す本装置のハードウェアやソフトウェアが提供する機能を十分に利用したシステムを構築できるよう検討してください。

また、システムの構築にあたり、ご契約の保守サービス会社および弊社営業担当にご相談されることもひとつの手だてです。

2. ハードウェアのセットアップ

本装置の電源をONにできるまでのセットアップを確実にを行います。この後の「システムのセットアップ」を始めるために運用時と同じ状態にセットアップしてください。11ページの説明に従ってセットアップしてください。

ハードウェアのセットアップには、オプションの取り付けや設置、周辺機器の接続に加えて、内部的なパラメータのセットアップも含まれます。ご使用になる環境に合わせたパラメータの設定はオペレーティングシステムや管理用ソフトウェアと連携した機能を利用するために大切な手順のひとつです。

3. システムのセットアップ

オプションの取り付けやBIOSの設定といったハードウェアのセットアップが終わったら、ハードディスクドライブのパーティションの設定やオペレーティングシステムや管理用ソフトウェアのインストールに進みます。

本装置がサポートしているOSはMicrosoft® Windows® Server 2003 Standard Edition 日本語版(以降、「Windows Server 2003」と呼ぶ)、Microsoft® Windows® 2000 Server 日本語版(以降、「Windows 2000」と呼ぶ)とLinuxです(サポートしているディストリビューションについては、お買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください)。

Linuxのインストール、および管理ソフトウェアのインストールとセットアップはExpress5800/Linuxインストール代行サービス説明書を参照してください。その他、本装置でサポートしていないOSをインストールするときはお買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

<初めてのセットアップの場合>

初めてのセットアップでは、お客様が注文の際に指定されたインストールの状態によってセットアップの方法が異なります。

「カスタムインストール」を指定して購入された場合は、本装置の電源をONにすれば自動的にセットアップが始まります。セットアップの途中で表示される画面のメッセージに従って必要事項を入力していけばセットアップは完了します。

「未インストール」にて購入された場合は、添付の「SystemGlobe DeploymentManager Lite」を使って再セットアップをするか、すべてマニュアルでインストールする「ローカルインストール」で再セットアップをします。

<再セットアップの場合>

添付の「SystemGlobe DeploymentManager Lite」を使って再セットアップをするか、すべてマニュアルでインストールする「ローカルインストール」で再セットアップをします。なお、再セットアップには外付CD-ROMドライブ(別売品)が必要となります。外付CD-ROMドライブはブレード収納ユニットの前面にあるUSBポートに接続してください。

4. 障害処理のためのセットアップ(Windows)

障害が起きたときにすぐに原因の見極めや解決ができるよう障害処理のためのセットアップをしてください。

5. 管理用ソフトウェアのインストールとセットアップ(Windows)

出荷時にインストール済みの管理用ソフトウェアやマニュアルでインストールしたソフトウェアをお使いになる環境にあった状態にセットアップします。また、本装置と同じネットワーク上にある管理PCにインストールし、本装置を管理・監視できるソフトウェアもあります。併せてインストールしてください。詳しくは「ソフトウェア編」をご覧ください。

6. システム情報のバックアップ

保守ユーティリティ「オフライン保守ユーティリティ」を使ってCPUブレード上にある設定情報のバックアップを作成します。ブレードサーバの故障などによるパーツ交換後に以前と同じ状態にセットアップするために大切な手順です。詳しくは36ページをご覧ください。

各運用管理機能を利用するにあたって

本装置で障害監視などの運用管理を行うには、本装置に添付されたESMPRO/ServerAgent、ESMPRO/ServerManagerまたは同等のソフトウェアが必要となります。この後で説明するセットアップ手順またはソフトウェアの説明書(別売の場合)に従って各ソフトウェアのインストールおよび必要な設定を行ってください。

各運用管理機能を利用する際には、以下の点にご注意ください。

サーバ管理機能を利用するにあたって

本体の各コンポーネント(CPU/メモリ/ディスク/ファン)の使用状況の監視やオペレーティングシステムのストール監視など、監視項目によってはESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentでしきい値などの設定が必要になります。詳細は、各ソフトウェアに関する説明やオンラインヘルプなどを参照してください。

ストレージ管理機能を利用するにあたって(ディスクアレイシステムを使用する場合)

Windows標準のソフトミラーを利用して、ディスクアレイを構築したシステムの管理を行うには、Windowsの説明書やヘルプを参照してください。また、ディスク稼働率や予防保守性を高めるために、定期的にディスクアレイシステムの整合性をチェックしてください。

無停電電源装置(UPS)管理機能を利用するにあたって

- UPSを利用するには、無停電電源装置にSmartUPS用SNMPカードを増設する必要があります。

制御用ソフトウェアにはESMPRO/AutomaticRunningController製品群が必要です。

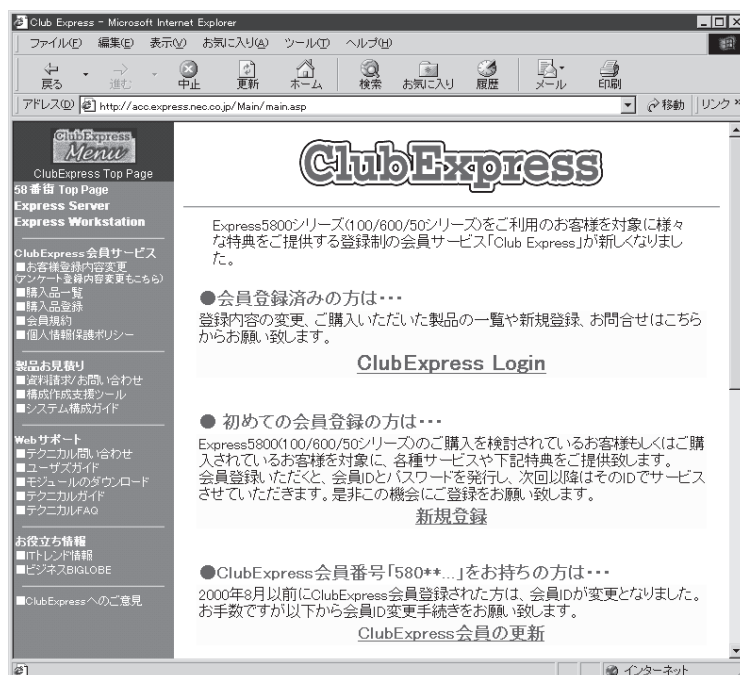
- 無停電電源装置を利用する場合、自動運転や停電回復時のサーバの自動起動などを行うにはBIOSの設定が必要です。「システムBIOS(102ページ)」を参照して、「Server」メニューにある「AC-LINK」と「Power On Delay Time」の設定をご使用になる環境に合った設定に変更してください。

お客様登録

NECでは、製品ご購入のお客様に「Club Express会員」への登録をご案内しております。添付の「お客様登録申込書」に必要事項をご記入の上、エクスプレス受付センターまでご返送いただくか、Club Expressのインターネットホームページ

<http://club.express.nec.co.jp/>

にてご登録ください。



「Club Express会員」のみなさまには、ご希望によりExpress5800シリーズをご利用になる上で役立つ情報サービスを、無料で提供させていただきます。サービスの詳細はClub Expressのインターネットホームページにて紹介しております。是非、ご覧ください。

セットアップを始める前に

セットアップの順序と参照するページを説明します。セットアップはハードウェアから始めます。



ビルド・トゥ・オーダー(BTO)でWindowsのインストールを指定した場合は、本体にWindowsのプロダクトキーが記載されたIDラベルが貼り付けられています。

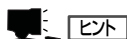


ラベルに記載されている内容は、Windowsのセットアップや再インストール時に必ず必要な情報です。剥がしたり汚したりしないよう注意してください。もし剥がれたり汚れたりして見えなくなった場合はお買い求めの販売店または保守サービス会社に連絡してください。あらかじめプロダクトキーをメモし、他の添付品といっしょにメモを保管されることをお勧めします。

ハードウェアのセットアップ

次の順序でハードウェアをセットアップします。

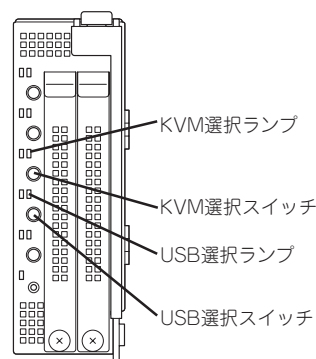
1. ラックを設置する。(→ラックに添付の説明書を参照)
2. ブレード収納ユニットをラックに取り付ける。(→ブレード収納ユニットユーザーズガイドを参照)
3. ブレード収納ユニットにオプション(電源ユニットとインテリジェントスイッチ)を取り付ける。(→ブレード収納ユニットユーザーズガイドを参照)
4. 本体にオプション(メモリ、ハードディスクドライブ)を取り付ける。(→90ページ、93ページ)
5. ブレード収納ユニットにキーボード/マウス、ディスプレイ装置を接続する。
6. 電源コードをブレード収納ユニットに接続する。(→ブレード収納ユニットユーザーズガイドを参照)
7. 本体をブレード収納ユニットに取り付ける。(→68ページ)
8. ブレード収納ユニット前面のUSBポートに外付CD-ROMドライブ(別売品)や外付フロッピーディスクドライブ(別売品)を接続する。(→ブレード収納ユニットユーザーズガイドを参照)



本体が2枚以上接続している場合は、本体のUSBスイッチを押してください。

9. 本体前面のUSB選択スイッチとKVM選択スイッチを押して、USB接続の周辺機器とコンソールを接続する。

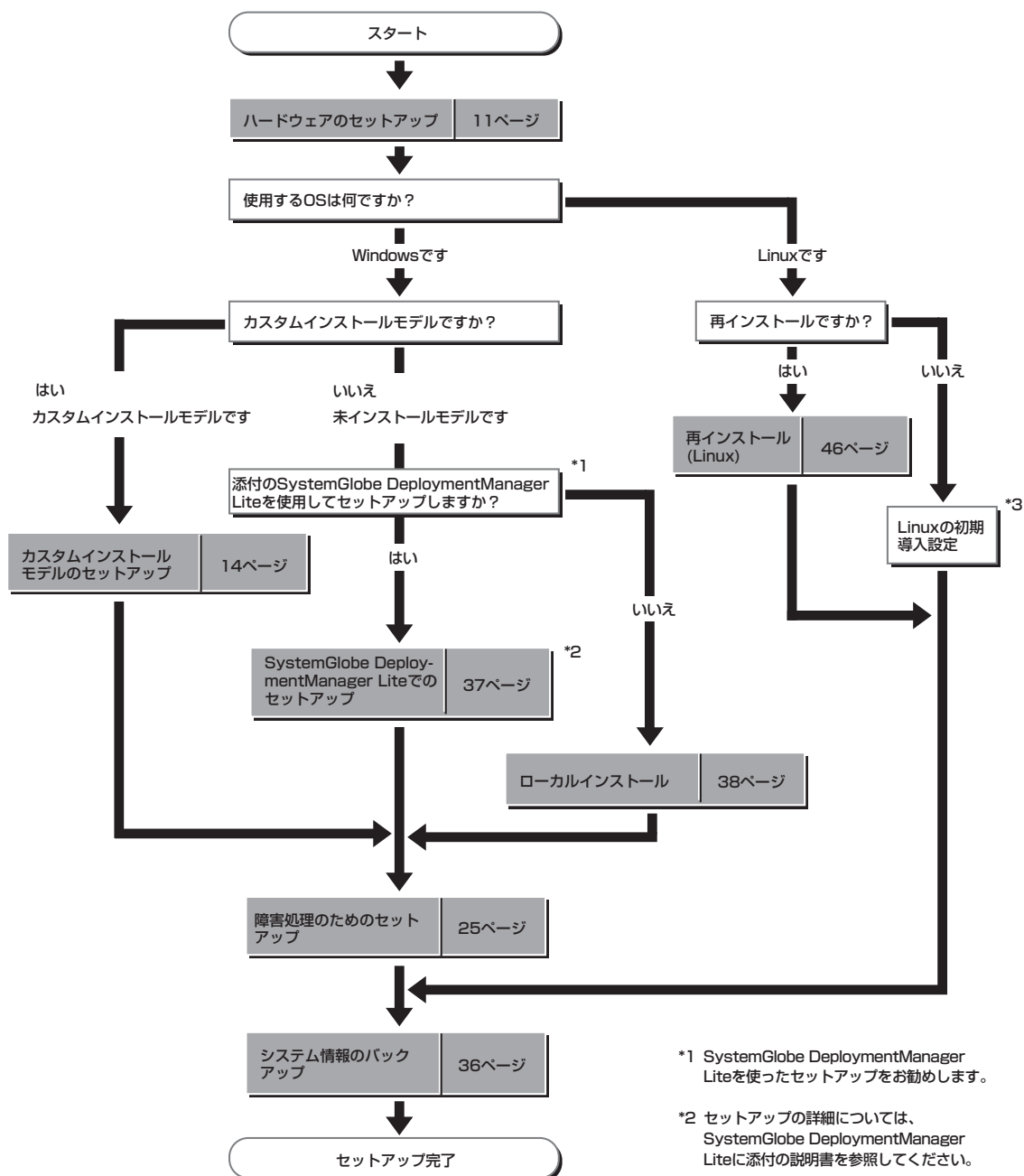
KVM選択ランプとUSB選択ランプが点灯します。



10. 本体の電源をONにして、ハードウェアの構成やシステムの用途にあわせてBIOSの設定をする。
105ページに示す設定例を参考にしてください。

システムのセットアップ

ハードウェアのセットアップを完了したら、お使いになるオペレーティングシステムに合わせて後述の説明を参照してください。再インストールの際にも参照してください。



カスタムインストールモデルのセットアップ

「ビルド・トゥ・オーダー」にて「カスタムインストール」を指定して購入された本装置のハードディスクドライブは、お客様がすぐに使えるようにパーティションの設定から、OS、本装置が提供するソフトウェアがすべてインストールされています。



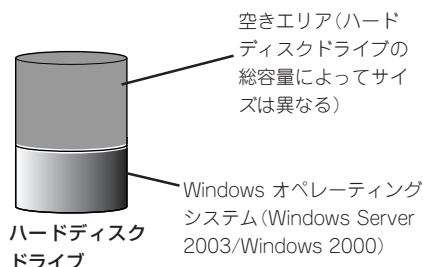
ここで説明する手順は、「カスタムインストール」を指定して購入された本装置で初めて電源をONにするときのセットアップの方法について説明しています。再セットアップをする場合や、その他の出荷状態のセットアップをする場合は、「未インストールモデルのセットアップおよび再セットアップ」を参照してください。

セットアップをはじめる前に —購入時の状態について—

セットアップを始める前に次の点について確認してください。

本装置のハードウェア構成（ハードディスクドライブのパーティションサイズも含む）やハードディスクドライブにインストールされているソフトウェアの構成は、購入前のお客様によるオーダー（ビルド・トゥ・オーダー）によって異なります。

右図は、標準的な本装置のハードディスクドライブの構成について図解しています。



セットアップの手順

次の手順でシステムを起動して、セットアップをします。

オペレーティングシステムのセットアップ

オペレーティングシステムのセットアップ方法は、使用するコンソール(キーボード・マウス・ディスプレイ装置)より異なります。

ブレード収納ユニットのコンソールを使用する場合(ローカルでのインストール)

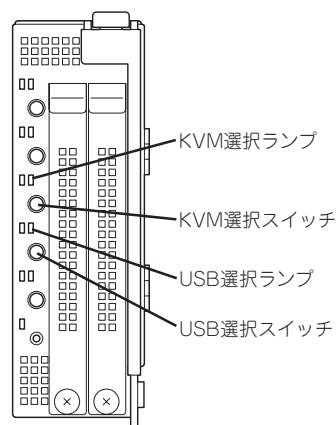
ブレード収納ユニットに接続したキーボード/マウス、ディスプレイ装置を使用してセットアップする手順です。必要に応じてブレード収納ユニット前面のUSBポートに外付CD-ROMドライブ(別売品)を接続しておいてください。

1. 本体前面のUSB選択スイッチとKVM選択スイッチを押してUSB選択ランプとKVM選択ランプを点灯させる。

これでブレード収納ユニットに接続したUSB接続の周辺機器とキーボード/マウスを使って操作をすることができます。また接続しているディスプレイ装置には、操作の状態が表示できます。

2. 周辺装置、本装置の順に電源をONにし、そのままWindowsを起動する。

Windowsのセットアップ画面が表示されます。



3. 画面の指示に従って必要な設定をする。
設定を続けていくと最後にセットアップの終了を知らせる画面が表示されます。
4. [完了]をクリックする。
システムが再起動します。
5. 再起動後、システムにログオンする。
6. 18ページ以降を参照して、PROSetのインストールやネットワークドライバの詳細設定をする。
7. オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、オプションに添付の説明書を参照してドライバをインストールする。
8. 25ページを参照して障害処理のためのセットアップをする。

9. 出荷時にインストール済みのソフトウェアの設定およびその確認をする。

インストール済みのソフトウェアはお客様が購入時に指定したものがインストールされています。例として次のようなソフトウェアがあります。

- ESMPRO/ServerAgent
- エクスプレス通報サービス*

上記のソフトウェアで「*」印のあるものは、お客様でご使用になる環境に合った状態に設定または確認をしなければならないソフトウェアを示しています。「ソフトウェア編」の「Express本体用バンドルソフトウェア」を参照して使用環境に合った状態に設定してください。

 重要

カスタムセットアップで出荷された場合、インストールされているService Packのバージョンと、装置に添付されているService Packのバージョンが異なる場合があります。

装置にインストールされているService Pack以降のバージョンが添付されている場合は、装置に添付の「Windows 2000 RUPx対応(Service Pack x)インストール手順書」を参照してService Packのインストールを行ってください。Service Pack情報に関しては、下記サイトより詳細情報をご確認ください。

[NEC 8番街] <http://nec8.com/>

10. 36ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。

以上でカスタムインストールで購入された本装置での初めてのセットアップは終了です。再セットアップをする際は「未インストールモデルのセットアップおよび再セットアップ」を参照してください。

管理PCのコンソールを使用する場合(ターミナルサービスクライアント(TSクライアント)を利用したインストール)

本装置と同じネットワーク上にあるコンピュータ(管理PC)のキーボードおよびマウス、ディスプレイ装置を使用してセットアップする手順です。

 重要

はじめに、この後の「ターミナルサービスについて」の「ターミナルサービスクライアントのインストール」を参照し、ターミナルサービスのクライアントコンピュータを設定する必要があります。

クライアント用のコンピュータを一台用意し、OSをインストールしてからクライアントサービスを設定してください。

本装置には、ターミナルサービスが「リモート管理サーバ」としてインストールされていますので、設定したクライアント側(以降、TSクライアントと呼ぶ)から、本装置に接続し、本装置側の管理作業を行ってください。

1. 周辺装置、本装置の順に電源をONにする。
2. <本装置にCD-ROMドライブが接続されていない場合>

ターミナルサービス(TS)クライアントのフロッピーディスクドライブおよびCD-ROMドライブの共有化を行う。

ドライバなどのインストール時に必要です。

3. TSクライアント側から、本装置に接続する。

手順については、この後の「ターミナルサービスについて」の「ターミナルサービスサーバへの接続を作成する方法」を参照してください。

以降の手順は、TSクライアント側から行うセットアップ手順です。

4. 管理者権限のあるユーザー(Administratorなど)でログオンする。

手順については、この後の「ターミナルサービスについて」の「ターミナルサービスを使用してサーバに接続する方法」を参照してください。

使用人名と会社名を入力するウィンドウが表示されます。

5. 使用人名と会社名を入力する。

6. TSクライアント側で共有化したフロッピーディスクドライブおよびCD-ROMドライブに、ドライブ文字を割り当てる。

7. 次ページを参照し、デバイスドライバ(本体標準装備)のセットアップを行う。

8. 25ページを参照し、障害処理のセットアップを行う。

以上でカスタムインストールで購入されたハードディスクドライブ内のオペレーティングシステムのセットアップは終了です。

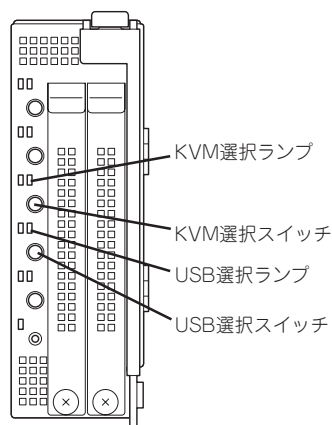
再インストールする場合は「未インストールモデルのセットアップおよび再セットアップ」を参照してください。

デバイスドライバ(本体標準装備)のセットアップ

オプションのデバイスのドライバのインストールやセットアップについてはオプションに添付の説明書を参照してください。



ブレード収納ユニットに接続しているUSB接続の周辺機器とキーボード/マウス、ディスプレイ装置を利用する場合は、セットアップを始める前に本体前面のUSB選択スイッチとKVM選択スイッチを押してUSB選択ランプとKVM選択ランプを点灯させ、対象となる装置として指定してください。



デバイスドライバのセットアップを行う場合、外付CD-ROMドライブ(別売品)を使用する必要がある場合があります。外付CD-ROMドライブを使用する場合の詳細な手順については、外付CD-ROMドライブの説明書を参照してください。

PROSet

PROSetは、ネットワークドライバに含まれるネットワーク機能確認ユーティリティです。このユーティリティを使用することにより、以下のことが行えます。

- アダプタ詳細情報の確認
- ループバックテスト、パケット送信テストなどの診断
- Teamingの設定

複数枚のネットワークアダプタをチームとして構成することで、装置に耐障害性に優れた環境を提供し、本装置とスイッチ間のスループットを向上させることができます。このような機能を利用する場合に必要なになります。

PROSetをインストールする場合は、以下の手順に従ってください。

● Windows Server 2003の場合

1. KVM切替スイッチとUSB切替スイッチを押してKVM選択ランプとUSB選択ランプを点灯させ、KVMとCD-ROMドライブを接続状態にし、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。
2. エクスプローラを起動する。

【標準のスタートメニューモードの手順】

スタートメニューから[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[エクスプローラ]をクリックする。

【クラシックスタートメニューモードの手順】

スタートメニューから[プログラム]→[アクセサリ]→[エクスプローラ]をクリックする。

3. 「PROSET.EXE」を実行する。
「<CD-ROMのドライブレター>:\WINNT\DOTNET\LAN\BC5\PROSET\WS03XP32」ディレクトリ内の「PROSET.EXE」アイコンをダブルクリックする。
[Intel(R) PROSet - Installshield ウィザード]が起動します。
4. [次へ]をクリックする。
5. [使用許諾契約の条項に同意します]を選択し、[次へ]をクリックする。
6. [標準]を選択し、[次へ]をクリックする。
7. [インストール]をクリックする。
[InstallShield ウィザードを完了しました]ウィンドウが表示されます。
8. [完了]をクリックする。
9. システムを再起動する。

● Windows 2000の場合

1. KVM切替スイッチとUSB切替スイッチを押してKVM選択ランプとUSB選択ランプを点灯させ、KVMとCD-ROMドライブを接続状態にし、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。
2. スタートメニューの[プログラム]、[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。
3. 「PROSET.EXE」を実行する。
「<CD-ROMのドライブレター>:\WINNT\W2K\LAN\BC5\PROSET\WIN2K」ディレクトリ内の「PROSET.EXE」アイコンをダブルクリックする。
[Intel(R) PROSet-Installshield Wizard]が起動します。
4. [次へ]をクリックする。
5. [使用許諾契約の条項に同意します]を選択し、[次へ]をクリックする。
6. [標準]を選択し、[次へ]をクリックする。
7. [インストール]をクリックする。
8. [完了]をクリックする。
9. システムを再起動する。

ネットワークアダプタの詳細設定

標準装備の2つのネットワークドライバは、自動的にインストールされ、転送速度とDuplexモードの設定も自動で1Gbit/FullDuplexに設定されますので変更はできません。

また、必要に応じてプロトコルやサービスの追加/削除をしてください。[ネットワークとダイヤルアップ接続]からローカルエリア接続のプロパティダイアログボックスを表示させて行います。



サービスの追加で[ネットワークモニタ]を追加することをお勧めします。[ネットワークモニタ]は、[ネットワークモニタ]をインストールしたコンピュータが送受信するフレーム（またはパケット）を監視することができます。ネットワーク障害の解析などに有効なツールです。インストールの手順は、この後の「障害処理のためのセットアップ」を参照してください。

PROSetのインストール状態によって手順が異なります。

ー PROSetがインストールされていない場合

1. スタートメニューから[設定]→[ネットワークとダイヤルアップ接続]をクリックする。
2. [ローカルエリア接続]アイコンを右クリックし、ショートカットメニューから[プロパティ]をクリックする。
「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
3. [構成]をクリックする。
ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスが表示されます。
4. [詳細設定]タブをクリックし、[リンク速度とデュプレックス]をSwitchキットと本装置の設定値と同じ値に設定する。
Switchキット(別売品)や本装置の値の設定方法については、Switchキットに添付の説明書を参照してください。
5. ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスの[OK]をクリックする。
6. [ローカルエリア接続のプロパティ]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。
7. [ローカルエリア接続2]についても、同様に設定を行ってください。
以上で完了です。

ー PROSetがインストールされている場合

1. スタートメニューから[設定]→[コントロールパネル]をクリックする。
2. [Intel(R) PROSet]アイコンをダブルクリックする。
[Intel(R) PROSet]ダイアログボックスが表示されます。
3. リスト中の[Intel(R) PRO/1000MT Dual Port Network Connection]をクリックして選択する。
4. [速度]タブをクリックし、リンク速度およびデュプレックス設定をSwitchキットと本装置の設定値と同じ値に設定する。
Switchキット(別売品)や本装置の値の設定方法については、Switchキットに添付の説明書を参照してください。

5. リスト中の「Intel(R) PRO/1000MT Dual Port Network Connection #2」をクリックして選択する。
6. [速度]タブをクリックし、リンク速度およびデュプレックス設定をSwitchキットと本装置の設定値と同じ値に設定する。

Switchキット(別売品)や本装置の値の設定方法については、Switchキットに添付の説明書を参照してください。
7. [Intel(R) PROSet]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。
8. システムを再起動する。

以上で完了です。

ネットワークアダプタの再インストール手順

OSのインストール後にネットワークドライバを削除し、再インストールする場合は以下の手順で再インストールしてください。

● Windows Server 2003の場合

ネットワークドライバを削除してしまった場合は、システムの再起動をすると自動的にインストールされますので、手動でのインストールを行う必要はありません。

● Windows 2000の場合

1. OSを再起動し、ログオンする。

[新しいハードウェアの検出ウィザード]ダイアログボックスが表示されます。
2. [次へ]をクリックする。
3. [デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)]ラジオボタンが選択されていることを確認し、[次へ]をクリックする。
4. [場所を指定]チェックボックスをチェックし、その他のチェックボックスのチェックを外し、[次へ]をクリックする。

[新しいハードウェアの検出ウィザード]の別ダイアログボックスが表示されます。
5. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブに挿入し、ドライバの格納場所に[<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥W2K¥LAN¥BC5¥PRO1000¥WIN2K]と指定し、[OK]をクリックする。
6. [次へ]をクリックする。
7. [完了]をクリックする。

再び[新しいハードウェアの検出ウィザード]ダイアログボックスが表示されます。上記手順2～7を参照し、インストールを行ってください。

ネットワークドライバ再インストール後、転送速度とDuplexモードの再設定が必要です。20ページを参照し、設定し直してください。

グラフィックスアクセラレータ

標準装備のグラフィックスアクセラレータドライバは、シームレスインストールおよびシステムのアップデート時に自動的にインストールされます。

OSのインストール後にグラフィックスアクセラレータドライバを削除し、再インストールする場合は以下の手順で再インストールしてください。

● Windows Server 2003の場合

1. KVM切替スイッチとUSB切替スイッチを押してKVM選択ランプとUSB選択ランプを点灯させ、KVMとCD-ROMドライブを接続状態にし、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。
2. スタートメニューから[プログラム]、[アクセサリ]の順でポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。
3. 「<CD-ROMのドライブレター> : ¥WINNT¥DOTNET¥VIDEO¥INTEL」ディレクトリ内の[SETUP.EXE]アイコンをダブルクリックする。

メッセージに従ってインストール作業を進めてください。

途中、「デジタル署名が見つかりません」というメッセージが表示された場合は、[はい]をクリックし、インストールを続けてください。
4. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブから取り出し、画面の指示に従ってOSを再起動する。

● Windows 2000の場合

1. KVM切替スイッチとUSB切替スイッチを押してKVM選択ランプとUSB選択ランプを点灯させ、KVMとCD-ROMドライブを接続状態にし、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。
2. スタートメニューから[プログラム]、[アクセサリ]の順でポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。
3. 「<CD-ROMのドライブレター> : ¥WINNT¥W2K¥VIDEO¥INTEL」ディレクトリ内の[SETUP.EXE]アイコンをダブルクリックする。

メッセージに従ってインストール作業を進めてください。

途中、「デジタル署名が見つかりません」というメッセージが表示された場合は、[はい]をクリックし、インストールを続けてください。
4. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブから取り出し、画面の指示に従ってOSを再起動する。

106キーボードドライバ

サーバスイッチユニット(SSU)に接続された106キーボードを使用する場合は、必要に応じて「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内にあるアップデートプログラムを適用してください。詳しくは、「ソフトウェア編」で説明しています。

CD-ROMドライバ

外付CD-ROMドライブ(別売品)についてはWindowsをインストール後に、ドライバをインストールする必要があります。詳細な手順は外付CD-ROMドライブの説明書を参照してください。

アダプタフォルトトレランス(AFT)/アダプティブロード バランシング(ALB)のセットアップ

アダプタフォルトトレランス(AFT)とは、複数のアダプタでグループを作り、使用されているアダプタに障害が発生した場合に自動的にグループ内の他のアダプタに処理を移行させます。

アダプティブロードバランシング(ALB)とは複数のアダプタでグループを作り、サーバからの送信パケットをグループすべてのアダプタから行うことにより、スループットを向上させます。この機能はAFT機能を含みます。

AFT/ALB機能を使用する場合は、以下の手順に従ってセットアップしてください。



- AFT/ALBのセットアップは、ドライバインストール後、必ず再起動した後に行う必要があります。
- Adapter Fault Tolerance(AFT)のグループとして指定するアダプタは、同一ハブ、異なるハブのどちらの接続でも使用可能ですが、異なるHUBに接続する場合は、すべて同一LAN(同一セグメント)上に存在する必要がありますので、カスケード接続にしてください。

● Windows Server 2003の場合

1. [コントロールパネル]ダイアログボックスで、[有線用Intel(R) PROSet]アイコンをダブルクリックする。
[有線ネットワーク用Intel(R) PROSet]ダイアログボックスが表示されます。
2. リスト中の「Intel(R) PRO/1000MT Dual Port Network Connection」にマウスポインタを合わせ、右クリックする。
メニューが表示されます。
3. [チームに追加]を選択し、[新規チームを作成]をクリックする。
[チーム化ウィザード]ダイアログボックスが表示されます。
4. 「アダプタ フォルト トレランス」または「アダプティブ ロード バランシング」を選択して[次へ]をクリックする。
5. [次へ]をクリックする。
6. チームにするアダプタをチェックして[次へ]をクリックする。
7. [完了]をクリックする。
[有線ネットワーク用Intel(R) PROSet]ダイアログボックスに戻ります。
8. [適用]をクリックし、[OK]をクリックする。
9. システムを再起動する。

● Windows 2000の場合

1. [コントロールパネル]ダイアログボックスで、[有線用Intel(R) PROSet]アイコンをダブルクリックする。
[有線ネットワーク用Intel(R) PROSet]ダイアログボックスが表示されます。
2. リスト中の[Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection]にマウスポインタを合わせ、右クリックする。
メニューが表示されます。
3. [チームに追加]を選択し、[新規チームを作成]をクリックする。
[チーム化ウィザード]ダイアログボックスが表示されます。
4. 「アダプタ フォルト トレランス」または「アダプティブ ロード バランシング」を選択して[次へ]をクリックする。
5. [次へ]をクリックする。
6. チームにするアダプタをチェックして[次へ]をクリックする。
7. [完了]をクリックする。
[有線ネットワーク用Intel(R) PROSet]ダイアログボックスに戻ります。
8. [適用]をクリックし、[OK]をクリックする。
9. システムを再起動する。

障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。

メモリダンプ(デバッグ情報)の設定(Windows Server 2003)

本体内のメモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。



メモリダンプの注意

- メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。
- ここで示す設定後、障害が発生し、メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。

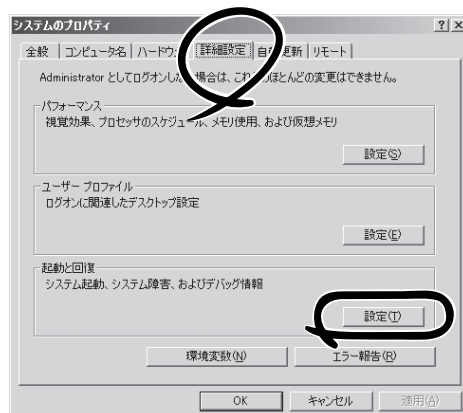
次の手順に従って設定します。

1. スタートメニューから[コントロールパネル]を選び、[システム]をクリックする。

[システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

2. [詳細設定]タブをクリックする。

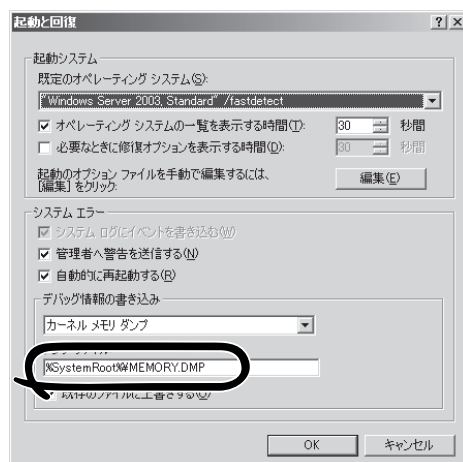
3. [起動と回復]ボックスの[設定]をクリックする。



4. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力する。

<Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

D:\¥MEMORY.DMP

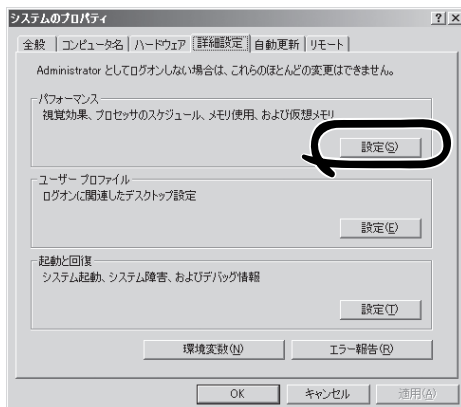


重要

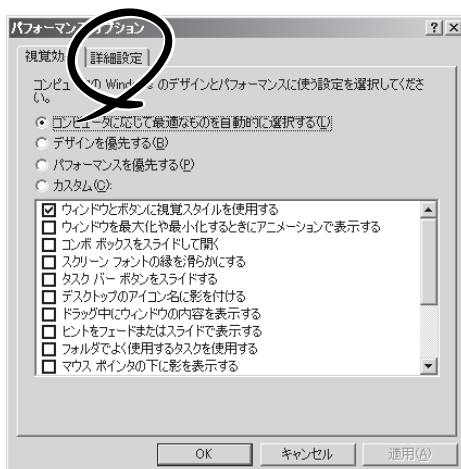
- デバッグ情報の書き込みは[完全メモリダンプ]を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、[完全メモリダンプ]を指定することはできません(メニューに表示されません)。その場合は、[カーネルメモリダンプ]を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+12MB以上(メモリサイズが2GBを超える場合は、2048MB+12MB以上)の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを[カーネルメモリダンプ]に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

5. [パフォーマンス]ボックスの[設定]をクリックする。

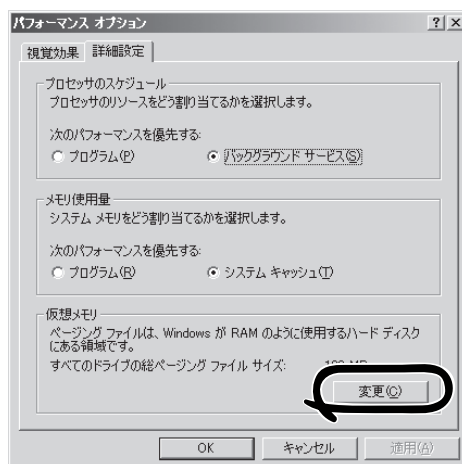
[パフォーマンスオプション]ウィンドウが表示されます。



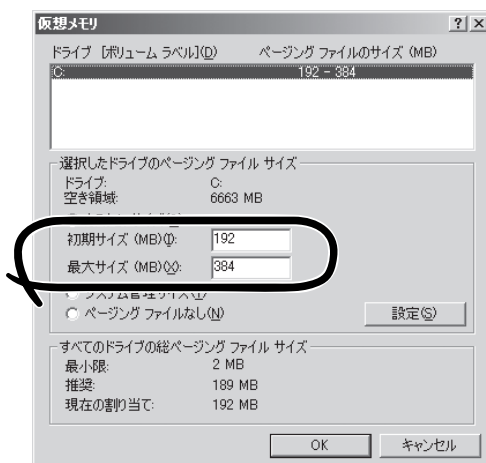
6. [パフォーマンスオプション]ウィンドウの[詳細設定]タブをクリックする。



7. [仮想メモリ]ボックスの[変更]をクリックする。



8. [選択したドライブのページングファイルサイズ]ボックスの[初期サイズ]を[推奨]値以上に変更し、[設定]をクリックする。



重要

- 必ずOSパーティションに上記のサイズで作成してください。ページングファイルの[初期サイズ]を「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合があります。
- 「推奨」値については、「作成するパーティションサイズについて(39ページ)」を参照してください。
- 障害発生時に備えて、事前にダンプスイッチを押し、正常にダンプが採取できることの確認を行うことをお勧めします。
- メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルの再設定を行ってください。

9. [OK]をクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

メモリダンプ(デバッグ情報)の設定(Windows 2000)

本体内のメモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。



メモリダンプの注意

- メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。
- ここで示す設定後、障害が発生し、メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。

次の手順に従って設定します。

1. スタートメニューの[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。

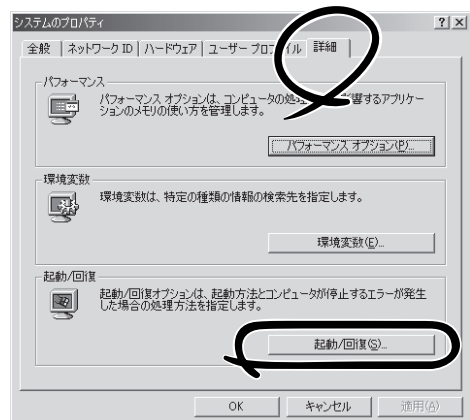
[コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。

2. [システム]アイコンをダブルクリックする。

[システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

3. [詳細]タブをクリックする。

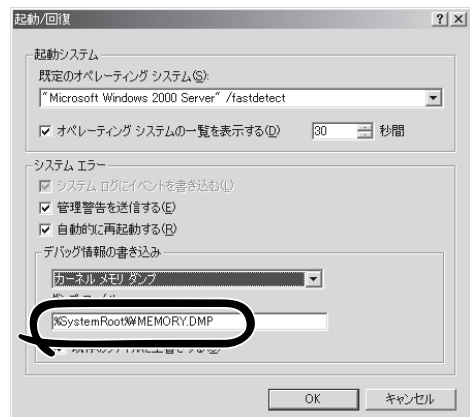
4. [起動/回復]をクリックする。



5. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力する。

<Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

D:¥MEMORY.DMP



🔑 重要

- デバッグ情報の書き込みは[完全メモリダンプ]を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、[完全メモリダンプ]を指定することはできません(メニューに表示されません)。その場合は、[カーネルメモリダンプ]を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+12MB以上(メモリサイズが2GBを超える場合は、2048MB+12MB以上)の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを[カーネルメモリダンプ]に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

6. [パフォーマンスオプション]をクリックする。
7. [仮想メモリ]ダイアログボックスの[変更]をクリックする。
8. [選択したドライブのページングファイルサイズ]ボックスの[初期サイズ]を[推奨]値以上に変更し、[設定]をクリックする。

🔑 重要

- 必ずOSパーティションに上記のサイズで作成してください。ページングファイルの[初期サイズ]を[推奨]値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合があります。
- 「推奨」値については、「作成するパーティションサイズについて(39ページ)」を参照してください。
- 障害発生時に備えて、事前にダンプスイッチを押し、正常にダンプが採取できることの確認を行うことをお勧めします。
- メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルの再設定を行ってください。

9. [OK]をクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

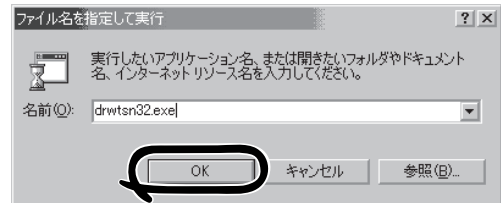
ワトソン博士の設定(Windows Server 2003)

Windowsワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッグです。アプリケーションエラーを検出すると本装置を診断し、診断情報(ログ)を記録します。診断情報を採取できるように次の手順に従って設定してください。

1. スタートメニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。

2. [名前]ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、[OK]をクリックする。

[Windowsワトソン博士]ダイアログボックスが表示されます。



3. [ログファイルパス]ボックスに診断情報の保存先を指定する。

「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。



チェック

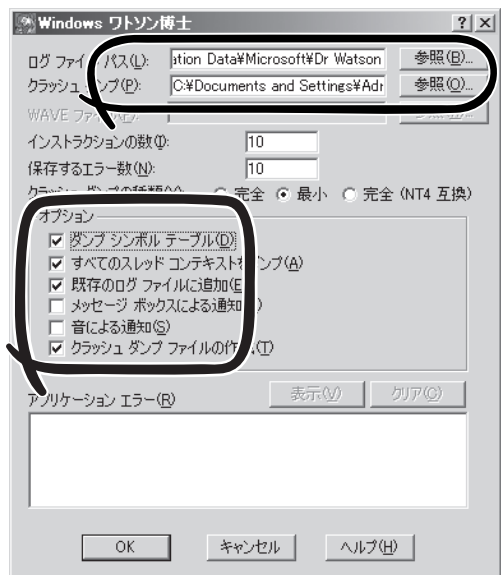
ネットワークパスは指定できません。
ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

4. [クラッシュダンプ]ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。



ヒント

「クラッシュダンプファイル」は
Windows Debuggerで読むことができる
バイナリファイルです。



5. [オプション]ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。

- ☐ ダンプシンボルテーブル
- ☐ すべてのスレッドコンテキストをダンプ
- ☐ 既存のログファイルに追加
- ☐ クラッシュダンプファイル作成

それぞれの機能の説明についてはオンラインヘルプを参照してください。

6. [OK]をクリックする。

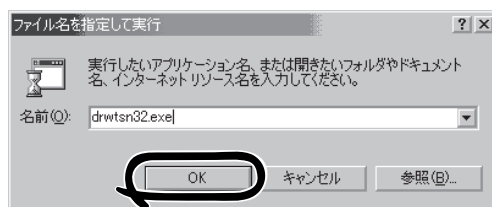
ワトソン博士の設定(Windows 2000)

Windows 2000ワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッガです。アプリケーションエラーを検出すると本装置を診断し、診断情報(ログ)を記録します。診断情報を採取できるように次の手順に従って設定してください。

1. スタートメニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。

2. [名前]ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、[OK]をクリックする。

[Windows 2000 ワトソン博士] ダイアログボックスが表示されます。



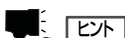
3. [ログファイルパス]ボックスに診断情報の保存先を指定する。

「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。

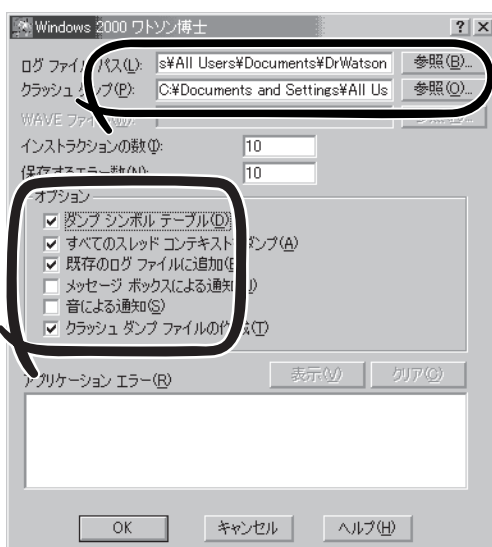


ネットワークパスは指定できません。
ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

4. [クラッシュダンプ]ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。



「クラッシュダンプファイル」は
Windows Debuggerで読むことができる
バイナリファイルです。



5. [オプション]ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。

- ☐ ダンプシンボルテーブル
- ☐ すべてのスレッドコンテキストをダンプ
- ☐ 既存のログファイルに追加
- ☐ クラッシュダンプファイルの作成

それぞれの機能の説明についてはオンラインヘルプを参照してください。

6. [OK]をクリックする。

ネットワークモニタのインストール

ネットワークモニタを使用することにより、ネットワーク障害の調査や対処に役立てることができます。ネットワークモニタを使用するためには、インストール後、システムの再起動を行う必要がありますので、障害が発生する前にインストールしておくことをお勧めします。

1. スタートメニューから[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。
[コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。
2. [アプリケーションの追加と削除] (Windows Server 2003の場合)アイコンまたは[プログラムの追加と削除] (Windows 2000の場合)アイコンをダブルクリックする。
[アプリケーションの追加と削除] (Windows Server 2003の場合)ダイアログボックスまたは[プログラムの追加と削除] (Windows 2000の場合)ダイアログボックスが表示されます。
3. [Windows コンポーネントの追加と削除]をクリックする。
[Windows コンポーネント ウィザード]ダイアログボックスが表示されます。
4. コンポーネントの[管理とモニタ ツール]チェックボックスをオンにして[次へ]をクリックする。
5. ディスクの挿入を求めるメッセージが表示された場合は、Windows 2000 CD-ROMをCD-ROMドライブにセットして[OK]をクリックする。
6. [Windows コンポーネント ウィザード]ダイアログボックスの[完了]をクリックする。
7. [アプリケーションの追加と削除] (Windows Server 2003の場合)ダイアログボックスまたは[プログラムの追加と削除] (Windows 2000の場合)ダイアログボックスの[閉じる]をクリックする。
8. [コントロールパネル]ダイアログボックスを閉じる。

ネットワークモニタは、スタートメニューから[プログラム]→[管理ツール]をポイントし、[ネットワークモニタ]をクリックすることにより、起動することができます。
操作の説明については、オンラインヘルプを参照してください。

管理ユーティリティのインストール

出荷時にインストール済みのソフトウェアの設定およびその確認をしてください。インストール済みのソフトウェアはお客様が購入時に指定したものがインストールされています。例として次のようなソフトウェアがあります。

- Adaptec Storage Manager - Browser Edition*
- ESMPRO/ServerAgent
- エクスプレス通報サービス*

上記のソフトウェアで「*」印のあるものは、お客様でご使用になる環境に合った状態に設定または確認をしなければならないソフトウェアを示しています。「ソフトウェア編」の「Express本体用バンドルソフトウェア」を参照して使用環境に合った状態に設定してください。

上記のソフトウェアの一部は、添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されています。インストールされていない場合は、第3編の「ソフトウェア編」を参照して個別にインストールしてください。



ユーティリティには、ネットワーク上の管理PCにインストールするものもあります。詳しくは第3編の「ソフトウェア編」またはオプション品に添付の説明書を参照してください。

システムのアップデート

システムのアップデートは次のような場合に行います。

- システム構成を変更した場合(内蔵オプションの機器の取り付け/取り外しをした時)
- 修復プロセスを使用してシステムを修復した場合
- バックアップ媒体からシステムをリストアした場合
(Service Pack関連のExpress5800用差分モジュールを適用したシステムの場合は、再度RURのフロッピーディスクを使用してExpress5800用差分モジュールを適用してください。このときService Packを再適用する必要はありません。)

また、システムのアップデートを行うと、システムのセキュリティを強化するために、Microsoftから提供された修正プログラムが適用されます。システムのアップデートを行うことをお勧めします。

<修正プログラム情報>

● MS01-026

過去のセキュリティ情報で提供された修正プログラムの累積修正と、不要なデコーディング操作によりIISでコマンドが実行されるなど、さらに3つの脆弱性の修正を包含したプログラムです。詳細については、

http://www.microsoft.com/japan/technet/security/prekb.asp?sec_cd=MS01-026
を参照してください。(2001年8月16日現在)

● MS01-033

Index Server ISAPIエクステンションの未チェックのバッファによりWebサーバが攻撃される。詳細については、

http://www.microsoft.com/japan/technet/security/prekb.asp?sec_cd=MS01-033
を参照してください。(2001年8月16日現在)

ターミナルサービスクライアントからアップデートする場合



重要

- ターミナルサービスクライアントのCD-ROMがネットワークドライブに割り当てられ、共有化されていることを確認してください。
共有化されていない場合は、ネットワークドライブに割り当て共有化してください。
- CD-ROM以外のネットワークドライブが割り当てられて接続されている場合は手動で切断後に行ってください。システムのアップデートを適用後、再起動してから手動で接続を行ってください。

1. ターミナルサービスクライアントに管理者権限のあるアカウント(Administratorなど)でシステムにログオンする。
2. ターミナルサービスクライアントのCD-ROMドライブに、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットし、USB切替スイッチを押してUSB選択ランプを点灯させ、CD-ROMを接続状態にする。
ターミナルサービスクライアントの画面にマスタコントロールメニューが表示された場合は、終了させてください。

3. <Windows Server 2003の場合>

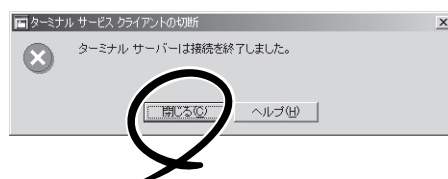
[スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]を選択し、[名前]ボックスに「ターミナルサービスクライアントのCD-ROMドライブ名:¥WINNT¥DOTNET¥UPDATE.VBS」を入力し、[OK]をクリックする。

<Windows 2000の場合>

[スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]を選択し、[名前]ボックスに「ターミナルサービスクライアントのCD-ROMドライブ名:¥WINNT¥W2K¥UPDATE.EXE」を入力し、[OK]をクリックする。

以降は、ターミナルサービスクライアントの画面に表示されるメッセージに従って処理を進め、Service Packを適用してください。

右の画面が表示されたら[閉じる]をクリックしてください。

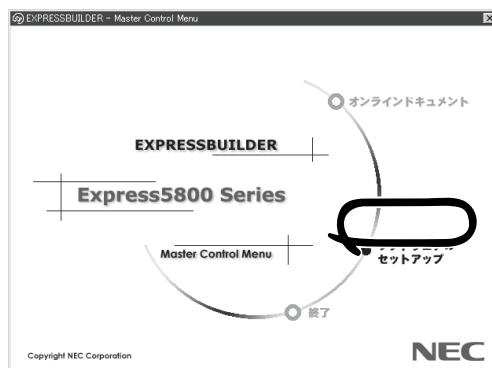


本装置側への再接続は、約5分たってから行ってください。システムのアップデートを適用中、ターミナルサービスの接続は自動で切断され、本装置が再起動します。

ローカルでアップデートする場合

1. 管理者権限のあるアカウント(Administratorなど)で本装置のシステムにログオンする。
2. KVM切替スイッチとUSB切替スイッチを押してKVM選択ランプとUSB選択ランプを点灯させ、KVMとCD-ROMドライブを接続状態にし、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。
3. 表示された場面「マスタコントロールメニュー」の「ソフトウェアのセットアップ」を左クリックし、メニューから[システムのアップデート]をクリックする。

以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進め、Service Packを適用してください。



システムのアップデート適用後は、自動的に再起動します。



再起動が始まったら、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブから取り出してください。

システム情報のバックアップ

システムのセットアップが終了した後、オフライン保守ユーティリティを使って、システム情報をバックアップすることをお勧めします。

システム情報のバックアップがないと、修理後にお客様の装置固有の情報や設定を復旧（リストア）できなくなります。次の手順に従ってバックアップをとってください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを用意する。
2. ブレード収納ユニット前面のUSBポートに外付けフロッピーディスクドライブ（別売品）と外付CD-ROMドライブ（別売品）を接続する。
3. 本体前面のUSB選択スイッチとKVM選択スイッチを押してUSB選択ランプとKVM選択ランプを点灯させる。



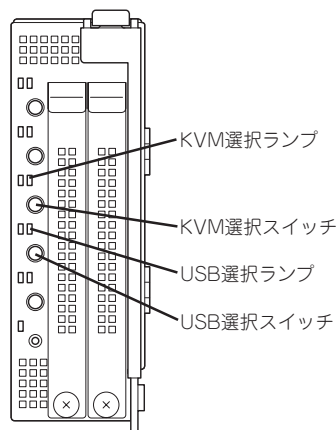
本体が2枚以上接続している場合は、本体のUSBスイッチを押してください。

4. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを外付CD-ROMドライブにセットして、再起動する。

「EXPRESSBUILDER」CD-ROMから起動して「EXPRESSBUILDER トップメニュー」が表示されます。

5. [ツール]－[オフライン保守ユーティリティ]を選択する。
6. [システム情報の管理]から[退避]を選択する。

以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。



未インストールモデルのセットアップ および再セットアップ

再セットアップには、次の2つの方法があります。

- SystemGlobe DeploymentManager Liteを使ったセットアップ
- SystemGlobe DeploymentManager Liteを使わないセットアップ（ローカルインストール）

SystemGlobe DeploymentManager Liteを使ったセットアップ

SystemGlobe DeploymentManager Liteに添付のドキュメント「SystemGlobe DeploymentManager Lite ユーザーズガイド」を参照して、再セットアップをしてください。



単一ハードディスクドライブとして使用する場合(RAID構成で使用しない場合)、BIOS設定を変更する必要があります。42ページのBIOSの設定を参照して設定を変更してください。

<CD-ROMドライブ>：¥DPML¥MANUAL¥users_guide.pdf

インストールを完了したら、次の作業を行ってセットアップを完了してください。

- システムのアップデート* (34ページ)
- ドライバの詳細設定 (18ページ)
- 障害処理のためのセットアップ (25ページ)
- システム情報のバックアップ (36ページ)
- USB CD-ROMドライブのインストール(外付CD-ROMドライブのユーザーズガイドを参照)

* オペレーティングシステムのインストールを行うシナリオで「システムのアップデート」を指示した場合は必要ありません。

ローカルインストール

SystemGlobe DeploymentManager Liteを使わないセットアップの手順について説明します。

インストールを始める前に、キーボード・マウス・ディスプレイ装置がブレード収納ユニットに、別売品の外付CD-ROMドライブや外付フロッピーディスクドライブなどがブレード収納ユニット前面のUSBポートに正しい構成で接続されていることを確認してください。接続されていない場合は、必ず接続してください。

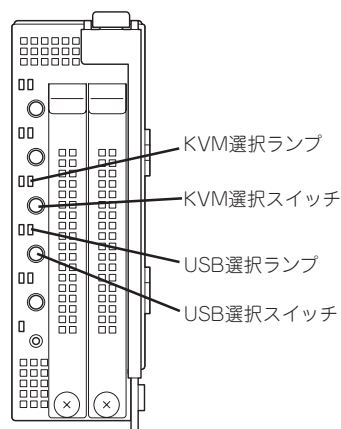
注意事項

ローカルインストールを始める前にここで説明する注意事項をよく読んでください。

● 装置の選択について

複数の機器が搭載されたブレード収納ユニットでは、ブレード収納ユニットに接続されたキーボード/マウス、ディスプレイ装置、USBインタフェース装置を使用する装置を選択するためにそれぞれの機器にあるKVM選択スイッチ、USB選択スイッチを使用します。KVM選択スイッチを押すとKVM選択ランプが点灯します。KVM選択ランプが点灯している装置の操作をキーボードとマウスで行えます。また、その内容をディスプレイ装置が表示します。

USB選択スイッチを押すとUSB選択ランプが点灯します。USB選択ランプが点灯している装置に、USBインタフェース装置が接続されます。



本体が2枚以上接続している場合は、本体のUSBスイッチを押してください。

● キー入力について

外付CD-ROMドライブや外付フロッピーディスクドライブのアクセスランプが消灯しているとき(フロッピーディスク、CD-ROMへのアクセスがないとき)にキー入力をしてください。

● システムのアップデートについて

システムの構成を変更したときは、必ず添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを使って、システムをアップデートしてください。詳しくは、34ページを参照してください。

● Service Packの適用について

本装置では、Service Packを適用することができます。添付されているService Pack以降のService Packを使用する場合は、下記サイトより詳細情報を確かめた上で使用してください。

[8番街] <http://nec8.com/>

● ダイナミックディスクへの再インストールについて

<例>



ダイナミックディスクにアップグレードしたハードディスクドライブに再インストールする際、OSをインストールするパーティション以外にパーティションが存在し、それを残したい場合は、次の点について注意してください。

- ー OSをインストールするパーティションには、前にOSをインストールしていたパーティションを選択してください。
- ー OSパーティションのフォーマットについては、「現在のファイルシステムをそのまま使用(変更なし)」を選択してください。

● 作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションの必要最小限のサイズは、次の計算式から求めることができます。

<Windows Server 2003の場合>

インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ + ダンプファイルサイズ
 インストールに必要なサイズ = 2900MB
 ページングファイルサイズ(推奨) = 搭載メモリサイズ × 1.5
 ダンプファイルサイズ = 搭載メモリサイズ + 12MB

<Windows 2000の場合>

インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ + ダンプファイルサイズ
 インストールに必要なサイズ = 1000MB
 ページングファイルサイズ(推奨) = 搭載メモリサイズ × 1.5
 ダンプファイルサイズ = 搭載メモリサイズ + 12MB



- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(メモリダンプ)採取のために必要なサイズです。ページングファイルサイズの初期サイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合があります。
- 1つのパーティションに設定できるページングファイルサイズは最大で4095MBです。搭載メモリサイズ × 1.5倍のサイズが4095MBを超える場合は、4095MBで設定してください。
- 搭載メモリサイズが2GB以上の場合のダンプファイルサイズは、最大で「2048MB+12MB」です。
- その他アプリケーションなどをインストールする場合は、別途そのアプリケーションが必要とするディスク容量を追加してください。

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、必要最小限のパーティションサイズは、前述の計算方法から次のとおりです。

<Windows Server 2003の場合>

$$2900\text{MB} + (512\text{MB} \times 1.5) + (512\text{MB} + 12\text{MB}) = 4192\text{MB}$$

<Windows 2000の場合>

$$1000\text{MB} + (512\text{MB} \times 1.5) + (512\text{MB} + 12\text{MB}) = 2292\text{MB}$$

システムをインストールするパーティションサイズが「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」より小さい場合はパーティションサイズを大きくするか、ディスクを増設してください。

ダンプファイルサイズを確保できない場合は、次のように複数のディスクに割り振ることで解決できます。

- (1) インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズを設定する。
- (2) 「障害処理のためのセットアップ」を参照して、デバッグ情報(ダンプファイルサイズ分)を別のディスクに書き込むように設定する。

(ダンプファイルサイズを書き込めるスペースがディスクにない場合はインストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズでインストール後、新しいディスクを増設してください。)

● ライセンス認証の手続きについて

Windows Server 2003のライセンス認証の手続きを行う際に使用するプロダクトキーは、Windows Server 2003に含まれるプロダクトIDの記載されたCOAラベルと一致させる必要があります。



インストールしてから30日以内にアクティベーションを行ってください。30日間を過ぎると、システムがロックされる場合があります。

● キーボードについて

サーバスイッチユニット(SSU)に接続された106キーボードを使用する場合は、セットアップ完了後に必要に応じて「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内にあるアップデートプログラムを適用してください。詳しくは、「ソフトウェア編」で説明しています。

セットアップの手順(Windows)

ローカルインストールでWindows Server 2003 日本語版またはWindows 2000 日本語版をインストールする手順を次に示します。以下、「Windows Server 2003」または「Windows 2000」と呼びます。



セットアップを始める前に必ず38ページの「注意事項」を参照してください。パーティションの作成やダイナミックディスクへのインストールに関する説明があります。

ローカルインストールに必要なもの

作業を始める前に次のディスクや説明書を用意します。

- ☐ 外付CD-ROMドライブ(別売品)
- ☐ 外付フロッピーディスクドライブ(別売品)
- ☐ N8460-003 外付CD-ROMドライブのドライバフロッピーディスク
- ☐ EXPRESSBUILDER(CD-ROM)
- ☐ Windows Server 2003の場合
 - Microsoft Windows Server 2003 Standard Edition 日本語版(CD-ROM)
- ☐ Windows2000の場合
 - Microsoft Windows 2000 Server日本語版(CD-ROM)
- ☐ ファーストステップガイド
- ☐ ユーザーズガイド(本書)



Windows 2000のインストールを実施する場合、Service Pack4以降を包含しているインストールCD-ROMを使用して下さい。

BIOSの設定

ローカルインストールを行う前に、BIOSの設定を行う必要があります。以下の手順で設定してください。

● ハードディスクドライブ1台のみ、またはRAIDを構成しない場合

1. 電源をONして本装置を起動する。
2. 102ページを参照してBIOS Setupを起動し、[Advanced]メニューの[Peripheral Configuration]—[SATA RAID Enable]を「Disabled」に設定する。
[Native Mode Operation]の項目が出てきます。

重要

[SATA RAID Enable]は出荷時の設定では「Enabled」に設定されています。

3. [Advanced]メニューの[Peripheral Configuration]—[Native Mode Operation]を[Auto]に設定し、再起動する。
4. 次ページ以降を参照してOSをインストールする。

● RAID0、RAID1を構成する場合

1. 電源をONして本装置を起動する。
2. 102ページを参照してBIOS Setupを起動し、[Advanced]メニューの[Peripheral Configuration]—[SATA RAID Enable]を「Enabled」に設定し、再起動する。

重要

[SATA RAID Enable]は出荷時の設定では「Enabled」に設定されています。

3. POST中に[Ctrl]+[A]でACUを起動し、RAIDを構築する。
4. 次ページ以降を参照してOSをインストールする。

Windows Server 2003のインストール

次の手順に従ってインストールします。

1. 本装置に接続した外付CD-ROMドライブにWindows Server 2003 CD-ROMをセットし、USB切替スイッチを押してUSB選択ランプを点灯させ、CD-ROMを接続状態にする。
2. 電源をONして本装置を起動する。
3. 画面上部に「Setup is inspecting your computer's hardware configuration...」が表示されている間に<F6>キーを押す。



チェック

- <F6>キーを押しても、このときには画面上には何の変化もあられられません。
- USBフロッピーディスクドライブのアクセスランプが消灯しているとき(フロッピーディスクへのアクセスがないとき)にキー入力をしてください。

4. 以下のメッセージが表示されたら<S>キーを押す。

Setup could not determine the type of one or more mass storage devices installed in your system, or you have chosen to manually specify an adapter. Currently, Setup will load support for the following mass storage devices.

以下のメッセージが表示されます。

Please insert the disk labeled
manufacturer-supplied hardware support disk
into Drive A:
* Press ENTER when ready.

5. 外付CD-ROMドライブのドライブフロッピーディスクを外付フロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。

外付CD-ROMドライブのドライブが表示されます。

6. 「USB driver」を選択し、<Enter>キーを押す。



チェック

外付フロッピーディスクドライブのアクセスランプが消灯しているとき(フロッピーディスクへのアクセスがないとき)にキー入力をしてください。

7. SATA HostRAIDを使用する場合、再度<S>キーを押す。



チェック

SATA HostRAIDを使用する場合は、事前に「ハードウェア編」の「システムBIOS -SETUP -」の項を参照し、HostRAIDを「Enabled」とし、「RAIDコンフィグレーション」の項を参照しRAIDドライブを作成してください。

8. Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDERをフロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。

SCSIアダプタのリストが表示されます。

9. [Adaptec Embedded Serial ATA HostRAID Driver For Windows 2000/XP/2003] を選択し、<Enter>キーを押す。

以降は、メッセージに従って作業を続けてください。インストールの詳細については、「ファーストステップガイド」を参照してください。ファイルのコピーの後、自動的に再起動します。以降は、画面の指示に従ってセットアップしてください。詳細については、「ファーストステップガイド」を参照してください。

Windows 2000のインストール

次の手順に従ってインストールします。

1. 本装置に接続した外付CD-ROMドライブにWindows 2000 CD-ROMをセットし、USB切替スイッチを押してUSB選択ランプを点灯させ、CD-ROMを接続状態にする。
2. 電源をONして本装置を起動する。
3. 画面上部に「Setup is inspecting your computer's hardware configuration...」が表示されている間に<F6>キーを押す。



チェック

- <F6>キーを押しても、このときには画面上には何の変化もあわれません。
- 外付フロッピーディスクドライブのアクセスランプが消灯しているとき(フロッピーディスクへのアクセスがないとき)にキー入力をしてください。

4. 以下のメッセージが表示されたら<S>キーを押す。

Setup could not determine the type of one or more mass storage devices installed in your system, or you have chosen to manually specify an adapter. Currently, Setup will load support for the following mass storage devices.

以下のメッセージが表示されます。

Please insert the disk labeled
manufacturer-supplied hardware support disk
into Drive A:
* Press ENTER when ready.

5. 外付CD-ROMドライブのドライバフロッピーディスクを外付フロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。

外付CD-ROMドライブのドライバが表示されます。

6. 「USB driver」を選択し、<Enter>キーを押す。



チェック

外付フロッピーディスクドライブのアクセスランプが消灯しているとき(フロッピーディスクへのアクセスがないとき)にキー入力をしてください。

7. SATA HostRAIDを使用する場合、再度<S>キーを押す。



チェック

SATA HostRAIDを使用する場合は、事前に「ハードウェア編」の「システムBIOS -SETUP -」の項を参照し、HostRAIDを「Enabled」とし、「RAIDコンフィグレーション」の項を参照しRAIDドライブを作成してください。

8. Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDERをフロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。

SCSIアダプタのリストが表示されます。

9. [Adaptec Embedded Serial ATA HostRAID Driver For Windows 2000/XP/2003] を選択し、<Enter>キーを押す。

以降は、メッセージに従って作業を続けてください。インストールの詳細については、「ファーストステップガイド」を参照してください。ファイルのコピーの後、自動的に再起動します。以降は、画面の指示に従ってセットアップしてください。詳細については、「ファーストステップガイド」を参照してください。

インストール後の作業

インストールを完了したら、次の作業を行ってセットアップを完了してください。

- システムのアップデート(34ページ)
- ドライバの詳細設定(18ページ)
- 障害処理のためのセットアップ(25ページ)
- システム情報のバックアップ(36ページ)
- ターミナルサービスのインストール(必要な場合・48ページ)
- Adaptec Storage Manager™ - Browser Editionのインストール(RAID0、RAID1を構成する場合・151ページ)

再インストール(Linux)

Linuxを再インストールする手順について説明します。

注意事項

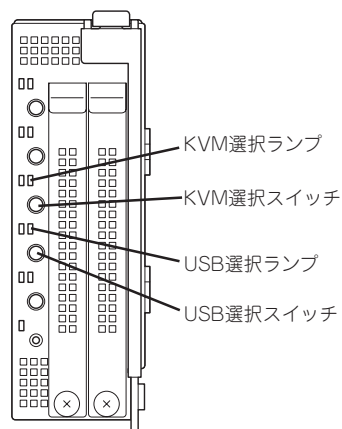
インストールを始める前にここで説明する注意事項をよく読んでください。

● 装置の選択について

複数の機器が搭載されたブレード収納ユニットでは、ブレード収納ユニットに接続されたキーボード/マウス、ディスプレイ装置、USBインタフェース装置を使用する装置を選択するためにそれぞれの機器にあるKVM選択スイッチ、USB選択スイッチを使用します。KVM選択スイッチを押すとKVM選択ランプが点灯します。KVM選択ランプが点灯している装置の操作をキーボードとマウスで行えます。また、その内容をディスプレイ装置が表示します。USB選択スイッチを押すとUSB選択ランプが点灯します。USB選択ランプが点灯している装置に、USBインタフェース装置が接続されます。



本体が2枚以上接続している場合は、本体のUSBスイッチを押してください。



● キー入力について

外付CD-ROMドライブや外付フロッピーディスクドライブのアクセスランプが消灯しているとき(フロッピーディスク、CD-ROMへのアクセスがないとき)にキー入力をしてください。

セットアップの手順(Linux)

Linuxをインストールする場合、「Express5800/Linuxインストール代行サービス説明書」を参照してインストールしてください。



単一ハードディスクドライブとして使用する場合(RAID構成を使用しない場合)、BIOS構成を変更する必要があります。次項のBIOSの設定を参照して設定を変更してください。

BIOSの設定

キーボード・マウス・ディスプレイ装置がブレード収納ユニットに正しい構成で接続されていることを確認してください。接続されていない場合は、接続してください。

● ハードディスクドライブ1台のみ、またはRAIDを構成しない場合

1. 電源をONして本装置を起動する。
2. 102ページを参照してBIOS Setupを起動し、[Advanced]メニューの[Peripheral Configuration]—[SATA RAID Enable]を「Disabled」に設定する。
[Native Mode Operation]の項目が出てきます。



[SATA RAID Enable]は出荷時の設定では「Enabled」に設定されています。

3. [Advanced]メニューの[Peripheral Configuration]—[Native Mode Operation]を[Serial ATA]に設定し、再起動する。
4. 「Express5800/Linuxインストール代行サービス説明書」を参照してOSをインストールする。

● RAID0、RAID1を構成する場合

1. 電源をONして本装置を起動する。
2. 102ページを参照してBIOS Setupを起動し、[Advanced]メニューの[Peripheral Configuration]—[SATA RAID Enable]を「Enabled」に設定し、再起動する。



[SATA RAID Enable]は出荷時の設定では「Enabled」に設定されています。

3. POST中に[Ctrl]+[A]でACUを起動し、RAIDを構築する。
4. 「Express5800/Linuxインストール代行サービス説明書」を参照してOSをインストールする。
OSのインストール終了後、「Adaptec Storage Manager™ - Browser Edition」のインストールを行ってください。

ターミナルサービスについて

ターミナルサービス(サーバ/クライアント)のインストールと接続方法について説明します。

Windows Server 2003の場合

Windows Server 2003を使用している場合のインストールと設定について説明します。

本装置側へのターミナルサービスのインストール

本装置へのターミナルサービスのインストールと設定は次のとおりです。

インストール方法

1. 本装置に接続した外付CD-ROMドライブ(別売品)に Windows Server 2003 CD-ROMをセットし、USB切替スイッチを押してUSB選択ランプを点灯させ、CD-ROMを接続状態にする。
2. [スタート]をクリックし、[設定]をポイント後[コントロールパネル]をクリックする。
3. [プログラムの追加と削除]をダブルクリックし、[Windows コンポーネントの追加と削除]をクリックする。
4. コンポーネントの一覧で[ターミナルサーバ]をチェックボックスをオンにする。
5. [ターミナルサーバーライセンス]チェックボックスがオンになっている場合は、オフにする。
リモート管理モードではこのサービスは必要ありません。[次へ]をクリックしてください。
6. ターミナルサーバー セットアップ ウィザード実行し注意事項をよく読んで[次へ]をクリックする。
7. アプリケーションの互換性のための規定のアクセス許可では、完全なセキュリティを選択する。
コンポーネントの構成セットアップウィザードを開始します。画面に表示されるメッセージに従って進んでください。
8. インストール完了で[完了]をクリックしてウィンドウを閉じる。
コンピュータの再起動を求められた場合は、システムを再起動してください。

ターミナルサービスのクライアントモジュールの共有

本装置で実行されているターミナルサービスに接続するには、ターミナルサービスクライアントを使用する必要があります。クライアントは、ターミナルサービスをインストールした本装置の次のフォルダから利用できます。

%SystemRoot%\System32\clients\tscclient\Net\Win32

任意のコンピュータにクライアントを簡単にインストールできるように、以下の手順で本装置に共有フォルダを作成します。

1. Windowsエクスプローラを使用して、以下のフォルダに移動する。
%SystemRoot%\System32\clients\tscclient\Net\Win32
[%SystemRoot%]は多くの場合、「C:\Winnt」フォルダです。
2. [Win32]フォルダを右クリックし、[共有]をクリックする。
3. [共有]タブで、[このフォルダを共有する]をクリックする。
4. 共有名を、TSCClientに変更する。
5. [アクセス許可]をクリックする。
6. [フルコントロール]チェックボックスと[変更]チェックボックスをオフにする。
7. [読み取り]アクセス許可のみオンにする。
8. [OK]をクリックした後、もう一度、[OK]をクリックする。

ターミナルサービスクライアント

ターミナルサービスクライアントは、Microsoft Windows 2000、Microsoft Windows Server 2003、およびさまざまなサーバのバージョンを含めた32ビット版のWindowsで実行できます。

上記で作成した共有に接続します。共有名は「¥¥サーバ名¥TSCClient」です。¥¥サーバ名には、ターミナルサービスをインストールしたコンピュータの名前を指定します。各種名称の大文字と小文字を区別する必要はありません。

インストール

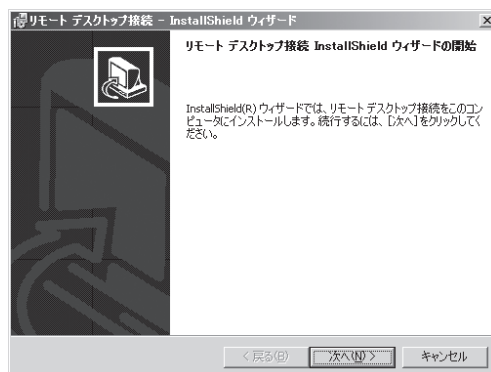
以下の手順で、ターミナルサービスクライアントをインストールします。

1. 上記で作成した「¥¥サーバ名¥TSCClient共有」に接続する。

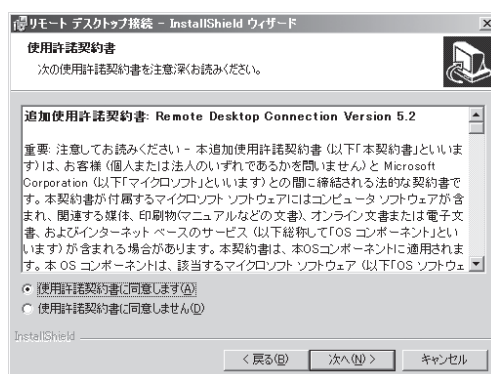
重要

administratorにパスワードを設定していないと接続できませんので、セキュリティ対策として必ずパスワードを設定して使用してください。

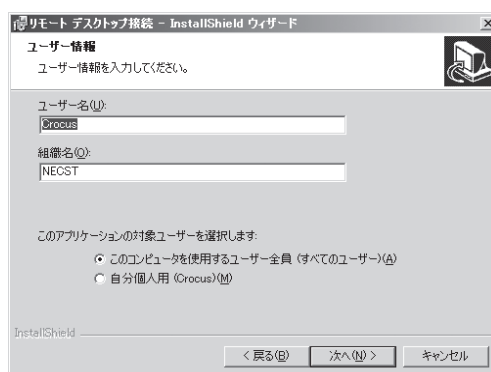
2. Setup.exeをダブルクリックする。
3. インストールウィザードが表示されたら[次へ]をクリックする。



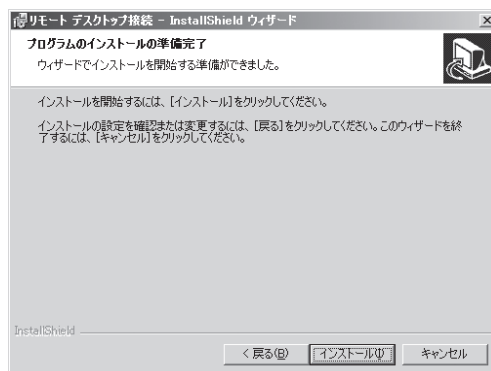
4. 使用許諾契約書が表示された時は[同意する]をクリックする。



5. [ユーザー情報]の入力で[ユーザー名]と[組織名]を設定する。
6. [次へ]をクリックする。



7. プログラムのインストールの準備完了で[インストール]をクリックし、終了する。



ターミナルサービスを使用してサーバに接続する方法

接続前にクライアント側のフロッピーディスクドライブとCD-ROMドライブを共有化してください。

1. [スタート]→[プログラム]をポイント後[リモートデスクトップ接続]をクリックする。
[リモートデスクトップ接続]ウィンドウが表示されます。
2. 接続するコンピュータ(サーバー)を指定して、[接続]をクリックする。

リモート制御製品を使用することとは大きく異なることに注意してください。サーバのキーボード、マウス、および画面は操作されません。代わりに、そのコンピュータにログオンし、新しいセッションが作成されます。ただし、このセッションはコンピュータでローカルに表示されるのではなく、ターミナル サービスを使ってリモートに表示されます。しかし、ログオンしたユーザーはローカルコンソールで作業しているかのように、コンピュータのプログラムにフルアクセス権を持ちます。

ターミナルサービスクライアントからの切断

セッションを切断することと、ログオフすることには重要な違いがあります。ターミナルサービスクライアントウィンドウを閉じただけの場合は、サーバでそのセッションはアクティブなままになります。再度接続すると、ターミナルサービスはそのセッションに再接続します。すべてのプログラムはセッション内で実行されたままであり、そのまま利用できます。セッションを終了するには、リモートコンピュータの [スタート]メニューを使ってログオフする必要があります。このログオフにより、リモートセッションが終了することに注意してください。コンピュータのローカルコンソールではユーザーはログオフされません。

Windows 2000の場合

Windows 2000を使用している場合のインストールと設定について説明します。

本装置側へのターミナルサービスのインストール

ターミナルサービスのインストールについて説明します。

インストール方法

1. 本装置に接続した外付CD-ROMドライブ(別売品)に Windows 2000 CD-ROMをセットし、USB 切替スイッチを押してUSB選択ランプを点灯させ、CD-ROMを接続状態にする。
2. <CD-ROMを挿入した後にダイアログボックスが自動的に表示される場合>
[追加コンポーネントのインストール]をクリックする。

<CD-ROMを挿入した後にダイアログボックスが表示されない場合>
① [スタート]をクリックし、[設定]をポイント後、[コントロールパネル]をクリックする。
② [アプリケーションの追加と削除]をダブルクリックし、[Windows コンポーネントの追加と削除]をクリックする。
3. コンポーネントの一覧で、[ターミナル サービス]チェックボックスをオンする。
4. [ターミナル サービス ライセンス]チェックボックスがオンになっている場合は、オフにする。
リモート管理モードではこのサービスは必要ありません。[次へ]をクリックしてください。
5. [リモート管理モード]をクリックし、[次へ]をクリックする。
6. ターミナル サービスウィザードを実行し、ターミナルサービスをインストールする。
7. インストールを完了するときにウィザードを閉じる。
8. コンピュータの再起動を求められた場合は、本装置を再起動する。

ターミナルサービスのクライアントモジュールの共有

「Windows Server 2003の場合」に記載している説明を参照してください。

ターミナルサービスクライアント

ターミナルサービスクライアントは、Microsoft Windows 2000、Microsoft Windows Server 2003、およびさまざまなサーバのバージョンを含めた32ビット版のWindowsで実行できます。

上記で作成した共有に接続します。共有名は「¥¥サーバ名¥TSCClient」です。¥¥サーバ名には、ターミナルサービスをインストールしたコンピュータの名前を指定します。各種名称の大文字と小文字を区別する必要はありません。

インストール

以下の手順で、ターミナルサービスクライアントをインストールします。

1. 上記で作成した「¥¥サーバ名¥TSCClient共有」に接続する。

重要

- カスタムインストールモデルの場合は、「NEC-XXXXXXXXXX」という名前で、WORKGROUPのサーバとしてインストールされます(注:「XXXXXXXXXX」は装置によって異なります)。
- WORKGROUPの場合、複数のサブネットを持つネットワークに接続したとき、DNSサーバが異なるサブネットのコンピュータ名をブラウズして表示することがあるため、本装置のコンピュータ名が表示されないことがあります。
- カスタムインストールの場合、本装置にadministratorのパスワードは設定されていません。セキュリティ対策として必ずパスワードを設定して使用してください。

2. Setup.exeをダブルクリックする。

[ターミナルサービス クライアントセットアップ]ダイアログボックスが表示されます。

3. [継続]をクリックし、[ユーザ情報の登録]ダイアログボックスで「名前」と「所属」を入力する。

[ユーザ情報の確認]ダイアログボックスで、[OK]をクリックする。

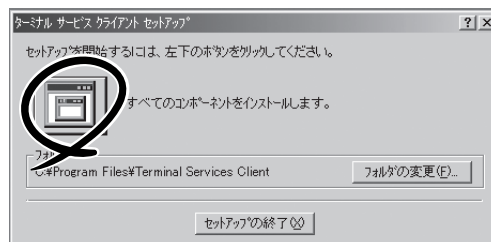
4. 使用許諾契約が表示されたときに [同意する]をクリックする。

5. [ターミナル サービス クライアント セットアップ]ダイアログボックスのアイコンボタンをクリックする。

クリックする前に必要に応じてインストールパスを変更できます。

6. すべてのユーザーが同じ初期設定になるようにするかどうかの問い合わせに対して [はい]をクリックする。

7. [OK]をクリックし、終了する。



HostRAID™について

ここではSATA HostRAIDの概要およびセットアップ手順について説明します。

SATA HostRAIDの概要

SATA HostRAIDとは、システムに標準搭載されたシリアルATAインタフェースを使用し、RAID機能を提供します。

SATA HostRAIDでは、ディスクアレイを制御するドライバとディスクアレイの管理ユーティリティである「Adaptec Storage Manager™ - Browser Edition」(以降、ASMBEと略す)から構成されています。

これらのソフトウェアはどちらか一方でも欠けると正常な動作ができません。ドライバは本書のセットアップ手順を参照し、ASMBEは「Adaptec Storage Manager™ - Browser Edition ユーザーズマニュアル」を参照して必ず両方のソフトウェアをインストールしてください。

仕様

ハードディスクドライブ:	2ドライブ
RAIDレベル:	RAID 0/RAID 1
OS:	Microsoft Windows Server 2003 Standard Edition/ Enterprise Edition Microsoft Windows 2000 Server/Advanced Server Linux(サポートするディストリビューションについてはお買い求めの販売店または、保守サービス会社にお問い合わせください)。
ディスクアレイの構築:	BIOSセットアップユーティリティ、EXPRESSBUILDER、および管理ユーティリティ

特長

- ハードディスクドライブの活線挿入(HotSwap)によるホットスワップリビルド機能をサポート(ただし、ASMBE稼働時のみ)。
- BIOSセットアップユーティリティにより、チャンネル単位でのディスクアレイ/SATAインタフェースの切り替え可能。
- 管理ユーティリティASMBE(JAVAベース)はブラウザ(IE5.5以上)を使用するため、管理用クライアントPCごとへのクライアントソフトウェアのインストールが不要(サーバへのインストールは必要)。



SATA HostRAIDを使用している場合は必ず、BIOSセットアップユーティリティよりHostRAIDの設定を「Enabled」に設定してください。「Disabled」のまま起動すると、ハードディスクドライブのデータが壊れる場合があります。

注意事項

SATA HostRAID全般に関する注意事項について説明します。

BIOSセットアップユーティリティに関する注意事項については、102ページを、ASMBEに関する注意/制限事項はオンラインドキュメント「Adaptec Storage Manager™ - Browser Editionユーザーズマニュアル」を参照し、確認してください。



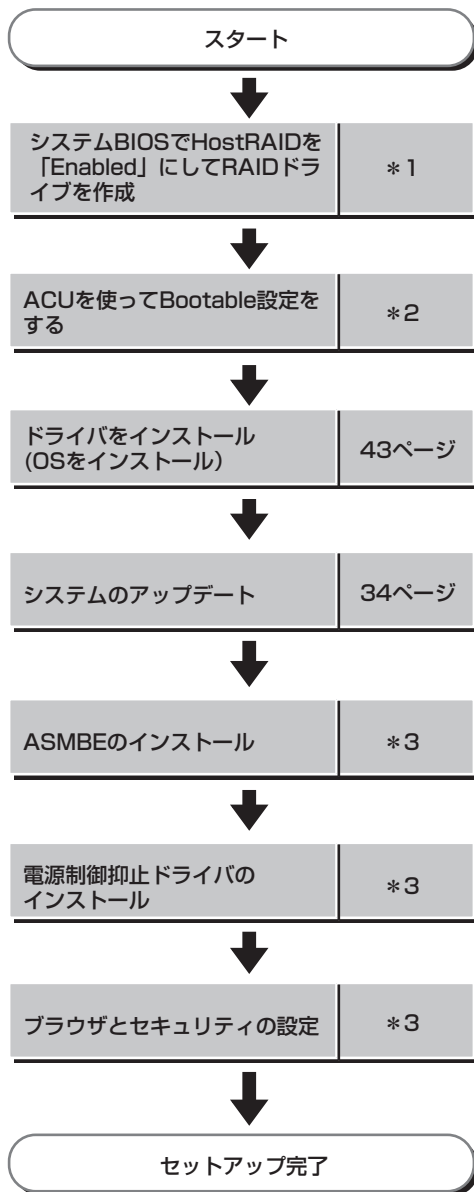
「Adaptec Storage Manager™ - Browser Editionユーザーズマニュアル」は本装置に添付のEXPRESSBUILDER CD-ROMにオンラインドキュメントとして格納されています。Linux版のユーザーズマニュアルの格納場所については、Express5800/Linuxインストール代行サービス説明書を参照してください。

- SATA HostRAIDの機能を使用して作成したRAIDドライブをシステムドライブとして運用してください。データ専用領域としては使用できません。
- SATA HostRAIDの機能を使用するためには、ドライバのインストール以外にASMBEのインストールが必須です。ASMBEのインストールについては、「Adaptec Storage Manager™ - Browser Editionユーザーズマニュアル」を参照してください。
- SATA HostRAIDで使用しているハードディスクドライブはホットスワップに対応していますが、RAID 1構成時で、かつASMBEがインストールされているOSが完全に起動し、ASMBEがFAILを検知している場合のみ有効です。
- HostRAIDで使用しているハードディスクドライブを交換する場合は、ハードディスクドライブを取り外してから替わりのハードディスクドライブを取り付けるまでに60秒以上の間隔をあけてください。この間隔が短いと予期せぬ事象が発生する可能性があります(ASMBE画面でハードディスクドライブの取り外し/取り付けを認識できてから実施することをお勧めします)。
- システム運用中に抜いたハードディスクドライブをもう一度実装した場合は、自動でリビルドが実行されますが、フォーマット済みのハードディスクを実装した場合は、リビルドは実行されません。この場合、フォーマット済みのハードディスクをスペアディスクに設定することでリビルドが実行されます。
リビルド方法の詳細については、「Adaptec Storage Manager™ - Browser Editionユーザーズマニュアル」を参照してください。
- SATA HostRAIDを使用する場合には、ACPI機能のスタンバイ/休止モードを使用できません。
- SATA HostRAIDの保守作業はBIOSセットアップユーティリティを使用せず、ASMBEを使用してください。
- SATA HostRAIDのアレイ保守操作以外はASMBEのブラウザ表示を終了させておいてください。
- WindowsでSATA HostRAID利用時は、「RAIDコンフィグレーション」の「ディスクアレイの管理」を参照し、必ずBIOSにてBootableの設定を行ってください。本設定を行わない場合は、障害発生時メモリダンプを採取することができない等の問題が発生します。
- ASMBEよりVerify機能を利用時、Timeoutが発生する場合があります。システム運用上問題はありませので、そのまま運用願います。

SATA HostRAIDセットアップの流れ

SATA HostRAIDシステムをセットアップする作業手順の流れは以下のとおりです。

Windows Server 2003



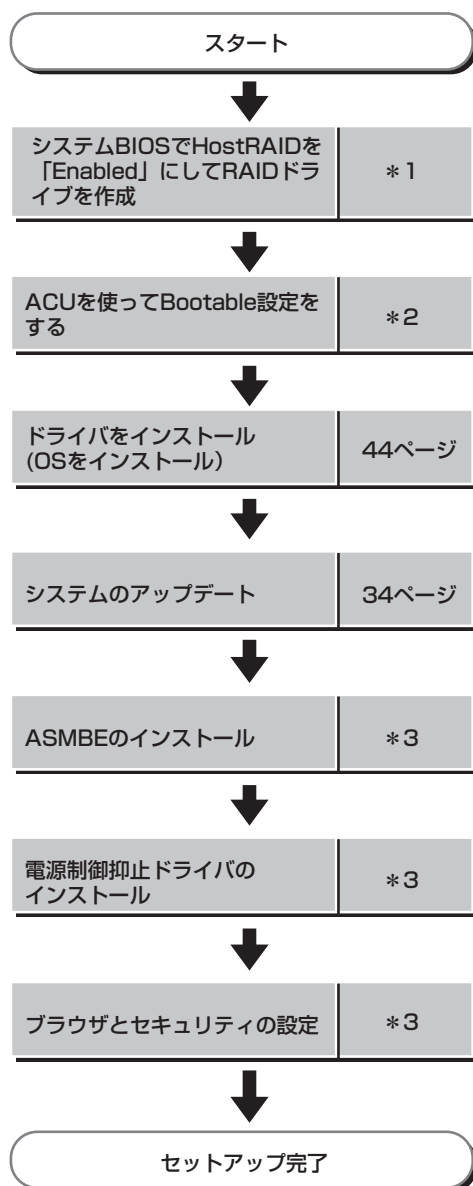
*1 HostRAIDを「Enabled」とする方法は、「ハードウェア編」の「システム BIOS -SETUP-」の項の「Advanced」メニューの「Peripheral Configuration」の項を参照願います。

RAIDドライブの作成方法については、「ハードウェア編」の「RAIDコンフィグレーション」を参照してください。SystemGlobe DeploymentManager Liteを利用した方法については、「SystemGlobe DeploymentManager Lite ユーザーズガイド」を参照してください。

*2 「ハードウェア編」の「RAIDコンフィグレーション」の「Array Configuration Utility (ACU) を使ったRAIDの構築」の項を参照し、「ディスクアレイの管理」の重要を参照願います。

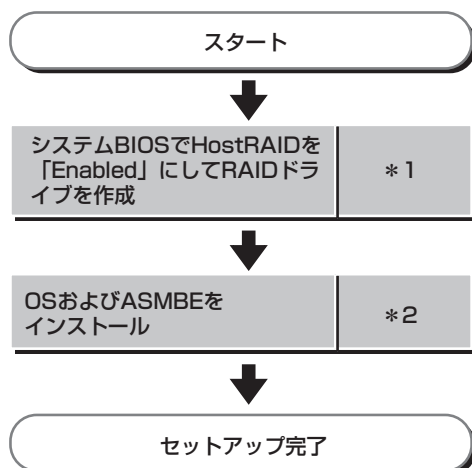
*3 Adaptec Storage Manager™ - Browser Editionユーザーズマニュアルを参照してください。

Windows 2000



- * 1 HostRAIDを「Enabled」とする方法は、「ハードウェア編」の「システム BIOS -SETUP-」の項の「Advanced」メニューの「Peripheral Configuration」の項を参照願います。
RAIDドライブの作成方法については、「ハードウェア編」の「RAIDコンフィグレーション」を参照してください。SystemGlobe DeploymentManager Liteを利用した方法については、「SystemGlobe DeploymentManager Lite ユーザーズガイド」を参照してください。
- * 2 「ハードウェア編」の「RAIDコンフィグレーション」の「Array Configuration Utility (ACU) を使ったRAIDの構築」の項を参照し、「ディスクアレイの管理」の重要を参照願います。
- * 3 Adaptec Storage ManagerTM - Browser Editionユーザーズマニュアルを参照してください。

Linux



- *1 HostRAIDを「Enabled」とする方法は、「ハードウェア編」の「システム BIOS -SETUP-」の項の「Advanced」メニューの「Peripheral Configuration」の項を参照願います。
RAIDドライブの作成方法については、「ハードウェア編」の「RAIDコンフィグレーション」を参照してください。SystemGlobe DeploymentManager Liteを利用した方法については、「SystemGlobe DeploymentManager Lite ユーザーズガイド」を参照してください。
- *2 Express5800/Linuxインストール代行サービス説明書を参照してください。